

南牧村人口ビジョン・
第二期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 安全・安心 野菜村

自然いっぱい 野菜也大盛り 星空が見守る 南牧 ～

令和3年3月

南牧村

目 次

第1部 人口ビジョン	1
第1章 南牧村人口ビジョンの策定にあたって	3
1 人口ビジョン策定の目的	3
2 人口ビジョンの位置付け	3
3 目標年度	3
4 我が国の地方創生の現状	4
5 南牧村の概況	6
第2章 人口の現状分析	7
1 人口推移・人口構造	7
2 人口動態	14
3 就業人口	19
第3章 人口推計と将来展望	21
1 将来人口推計	21
2 人口の将来展望にかかる村民意識等	23
3 人口の将来展望	40
第2部 総合戦略	41
第1章 南牧村総合戦略策定にあたって	45
1 総合戦略策定の目的	45
2 総合戦略の位置付け	45
3 南牧村第5次総合計画との関係	45
4 総合戦略の計画期間	46
第2章 総合戦略の基本的な考え方	47
1 まち・ひと・しごととの創生	47
2 政策5原則の実現	47
3 南牧村の基本理念と基本方針	48
4 基本目標の設定	50
第3章 基本目標ごとの施策の展開	51
基本目標1 稼ぐ南牧村をつくとともに、安心して働けるようにします	51
基本目標2 他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります	55
基本目標3 若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます	58
基本目標4 ひとが集う、安全で安心して暮らせる魅力的な南牧村をつくります	62
第5章 総合戦略の推進と効果検証の仕組み	68
1 推進と効果検証の仕組み	68
2 計画のフォローアップ	69

第1部

人口ビジョン

第1章 南牧村人口ビジョンの策定にあたって

1 人口ビジョン策定の目的

南牧村では、ピーク時には4,000人ほどいた人口は、現在は3,000人程度まで減少しています。また、高齢者の人口（65歳以上）の比率は30.0%に近付き、全国や長野県の平均を上回る少子高齢化と生産年齢人口（15～64歳）の減少が進んでいます。

この傾向が続けば、担い手不足による地域の活力や機能の低下、村民の生活を支える社会基盤の維持管理にかかる費用のほか、社会保障費の増加による行財政の悪化など、さまざまな影響が懸念されます。

南牧村人口ビジョンは、本村における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもので、人口に関し、村民と認識を共有するとともに、本村におけるまち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策の企画・立案する上での重要な基礎として位置付けます。

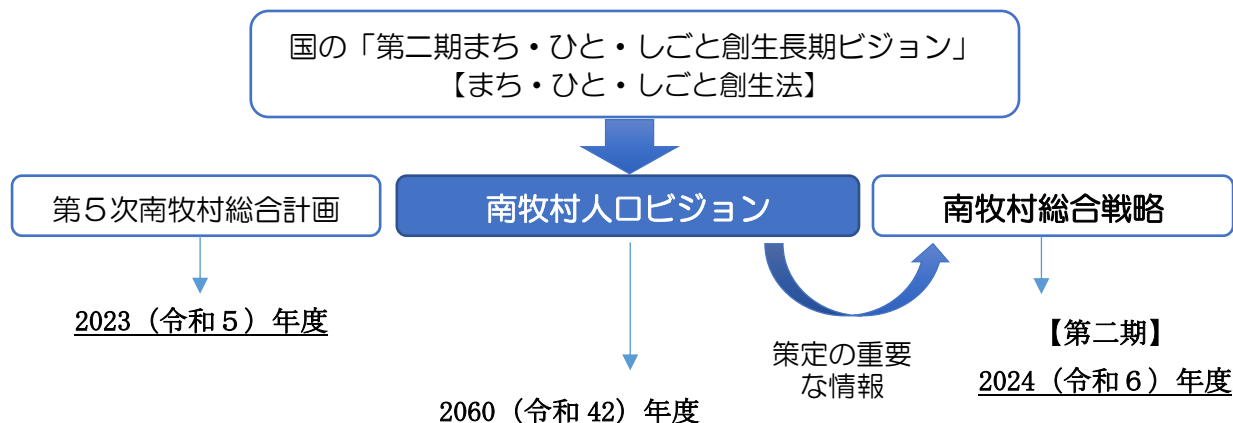
2 人口ビジョンの位置付け

南牧村人口ビジョンは、2014（平成26）年11月に成立した「まち・ひと・しごと創生法」に基づく国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年12月改訂版）を踏まえて、本村の人口の現状を分析し、人口に対する村民の認識を共有するとともに、本村が今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示したものです。

また、2014（平成26）年3月に策定した「南牧村第5次総合計画＜～2023（令和5）年度＞」よりも長期の人口展望を定めるものであり、人口減少抑制の視点から本村の今後4か年の効果的な施策を立案する「第二期南牧村総合戦略＜2021（令和3）年度～2024（令和6）年度＞」（本編第2部）を策定するための重要な情報として、2015（平成27）年の策定以来初の見直しを実施するものです。

3 目標年度

人口ビジョンの目標年度は、2060（令和42）年度とします。



4 我が国の地方創生の現状

地方創生は、日本が直面する人口減少・少子高齢化という構造的な課題について、その危機感を国・地域全体で広く共有し、対応していくため、2014（平成 26）年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国を挙げて取り組んでいる政策です。

同法に基づき、国においては、2015（平成 27）年から 2019（令和元）年度までを期間とした「第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少や東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）への一極集中解消に対応する取組みを推進してきました。しかしながら、日本の人口は、2008（平成 20）年に減少局面に突入して以来、2018（平成 30）年現在で 8 年連続減少するとともに、65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合は過去最高を記録し、年間出生数は 90 万人を割り込むなど、人口減少と少子高齢化は、世界的に見ても空前の速度と規模で進行する状況にあります。

また、依然として、東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県の一都三県からなる東京圏への人口一極集中の傾向が続いており、2018（平成 30）年度現在で 13 年連続転入超過となり、約 3,700 万人、日本の総人口の約 29%もの人が居住しています。若い世代の東京圏への人口移動に伴う、全国に占める東京圏の出生数の割合の増加は、結果として、地方とのつながりが弱い者の増加という新たな課題にもつながっている一方で、税収は過去最高を記録するなど、企業収益は堅調に推移しており、全国すべての地域で有効求人倍率は 1 倍を超え、時間当たりの賃金も上昇するなど、雇用・所得 状況も改善の傾向が窺えます。

《人口減少問題に取り組む意義（「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」より抜粋）》

- 内閣府が 2014 年 8 月に実施した世論調査においては、9 割以上の国民が「人口減少は望ましくない」と答えており、「政府は人口減少の歯止めに取り組んでいくべき」とする回答は 7 割を超えました。また、民間調査会社が 2019 年に実施した調査によると、人口減少を実感していると回答した者は回答者全体の約 4 割であったものの、人口 5 万人未満の都市における回答者では、約 3 分の 2 が人口減少を実感していると回答しました。地域差はあるものの、人口減少に対する意識や危機感は、国民の間に徐々に浸透してきています。
- 地方においては、地域社会の担い手が減少しているだけでなく、消費市場が縮小し地方の経済が縮小するなど、様々な社会的・経済的な課題が生じています。この状況が継続すると、人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が更に人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥ることとなります。国土交通省が 2014 年 7 月 4 日に発表した「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」では、2050 年における人口増減状況が示されました。これによると、2050 年には、現在、人が住んでいる居住地域のうち 6 割以上の地域で人口が半分以上に減少し、さらに 2 割の地域では無居住化すると推計されています。中山間地域や農山漁村などにおいては、日常の買い物や医療など地域住民の生活に不可欠な生活サービスの維持・確保が困難になるおそれがあります。
- 社会が近代化すれば、出生率が低下するとする見方もあります。しかし、先進諸国の中でも、国によって動向は大きく異なっています。国際的な状況をみると、日本、イタリアは 1.4 前後、シンガポール、韓国は 1.2 以下と低い出生率となっているのに対し、フランス、スウェーデン、アメリカ、イギリスは約 1.8 前後の出生率を維持しています。

- 対策が早く講じられ、出生率が早く向上すればするほど、将来人口に与える効果は大きく、出生を担う世代の人口が減少し続ける状況下では、出生率がいつの時点で向上するかが出生数、すなわち将来の人口規模を決定していくこととなるからです。一定の仮定を置いた試算を行うと、出生率の向上が5年遅れるごとに、将来の定常人口はおおむね300万人ずつ減少することとなり、人口減少は、早急に対応すべき「待ったなし」の課題となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」（第15回、平成27年）によると、18～34歳の独身者は、男女ともに約9割は「いずれ結婚するつもり」と回答しており、また、結婚した場合の希望子ども数は男性1.91人、女性2.02人となっています。さらに、同調査によると、夫婦の予定子ども数は2.01人となっています。こうした希望等が叶うとした場合に想定される出生率を「国民希望出生率」として、一定の仮定に基づく計算を行うと、おおむね1.8程度となるのに対し、2018年の日本の出生率は1.42(10)となっています。同調査では、結婚を希望する者の割合、予定子ども数及び希望子ども数は、地域によってある程度の違いはあるものの、例えば、大都市部で顕著に低いといった状況はみられません。しかしながら、出生率は地域によって異なっており、中には国民希望出生率よりも高い出生率を実現している地域もありますが、多くの地域では、結婚・出産・子育てに関する国民の希望が十分に実現されていないと考えられます。
- 地方から東京圏を中心とした大都市圏に人口が流出している一方、東京在住者に対して行った意向調査によると、東京都在住者の約4割が「移住する予定」又は「今後検討したい」と考えているという結果となりました。移住希望は、特に10・20代の若い世代の男女や40代の男性で高い結果となっています。また、地方への移住支援を行うNPO法人への2018（平成30）年の相談件数は、2014（平成26）年に比べ3倍以上増加するように、地方への移住に関する国民の関心や希望は高い水準にあると考えられます。上記の意向調査では、移住を考える上で重視する点として、地方の雇用や日常生活の利便性などが挙げられていることから、こうした点を考慮して、地方への移住に関する国民の希望を実現することで、地方への新しいひとの流れをつくることが重要です。

5 南牧村の概況

本村は長野県の東南端に位置し、東西、南北とも約 16km、面積約 133 km²を有しています。北は小海町、東は川上村と南相木村に、南は山梨県北杜市に、西は八ヶ岳連峰を境として茅野市に接しています。八ヶ岳連峰東斜面の山岳地帯と標高 1,300～1,400m の高原、村域東側を南北に流れる千曲川流域の開かれた平地からなる自然環境に恵まれた地域です。

周りを山に囲まれた平坦な地形で、寒冷地でありながら雪が少ないことなどから、電波の観測に最適な場所として国立天文台が設置されており、日本で有数の星がきれいに見える地域となっています。

夏は涼しく、冬は寒さが厳しい気候であり、8月の平均最高気温は 25 度前後、1月の平均最低気温はマイナス 12 度前後で推移しています。



本村においては、国の枠組を踏まえ、2015（平成 27）年に「南牧村人口ビジョン」とともに、2019（令和元）年度までを計画期間※とした「南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「安全・安心 野菜村 自然いっぱい 野菜也大盛り 星空が見守る南牧」の特色を活かした、持続可能なむらづくりに向けて戦略的かつ総合的に対策に取り組んできました。この間、本村の合計特殊出生率の上昇や転出超過数の減少の傾向がみられ、人口減少を一定程度抑制する効果はうかがえるものの、若年層を中心に周辺自治体や東京圏への人口流出は続いています。

次章において、本村の人口等の現状について具体的に把握・分析します。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、計画期間を令和 2 年度までに延長しています。

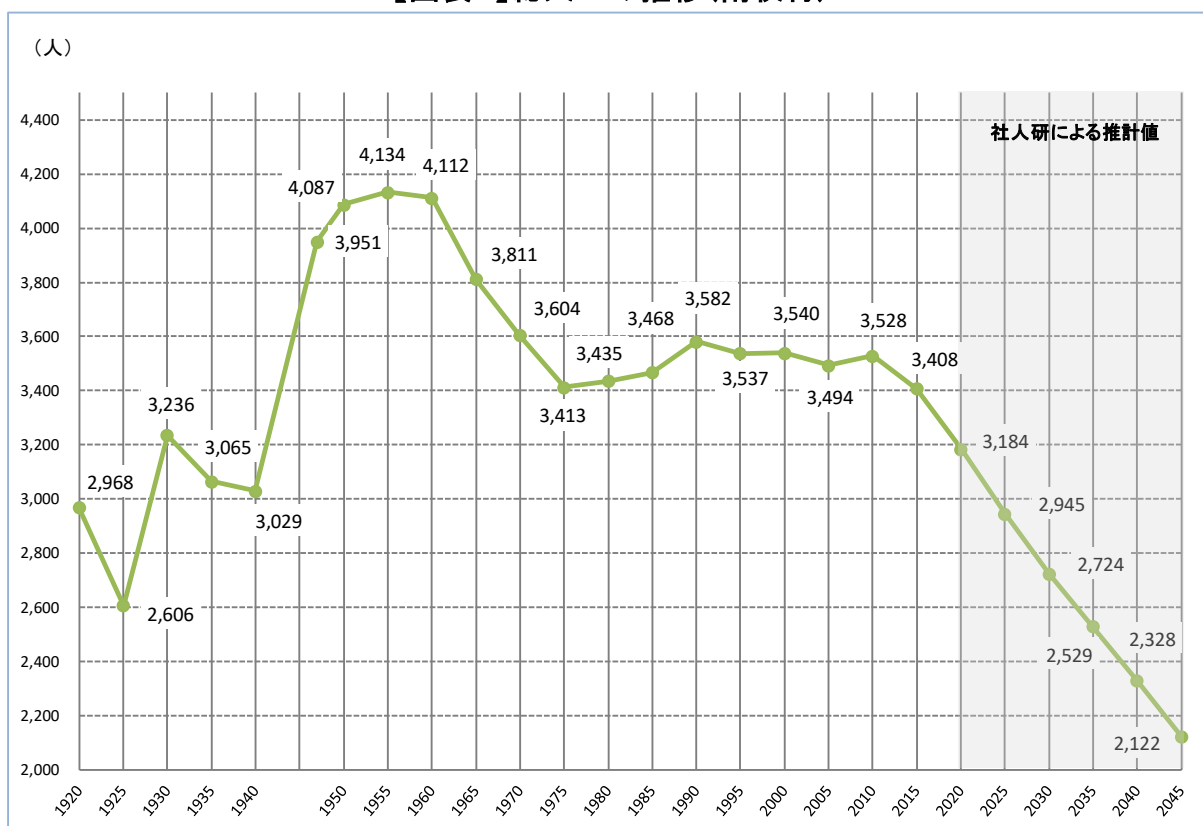
第2章 人口の現状分析

1 人口推移・人口構造

(1) 総人口の推移

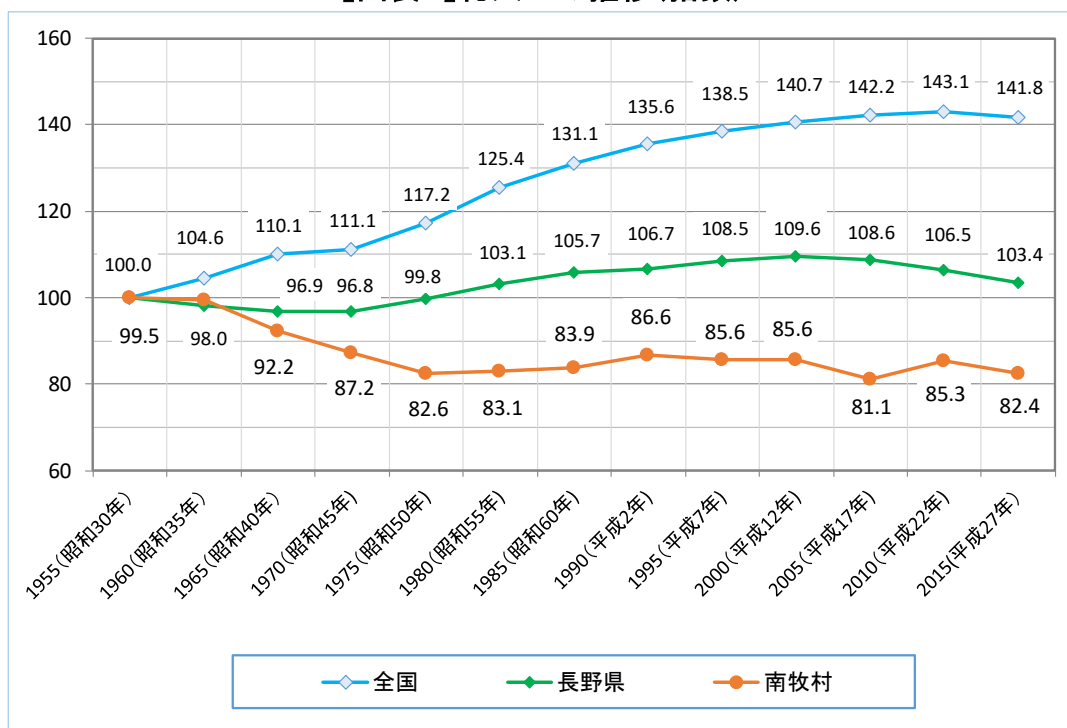
- 南牧村の総人口について 1920（大正 9）年からの推移をみると、国勢調査では、1955（昭和 30）年の 4,134 人をピークに減少し、その後 1975（昭和 50）年に増加に転じたものの、ほぼ横ばいに推移し、近年は減少傾向にあります。さらに、国立社会保障・人口問題研究所の 2020 年（令和 2 年）以降の推計では、今後、人口は年々減少が進んでいくことが見込まれています。
- 総人口のピークは、全国は 2010（平成 22）年、長野県は 2000（平成 12）年であるのに対して、南牧村では、国や長野県全体よりも 40～50 年程早く、人口減少が始まっています。当村のピークである 1955（昭和 30）年を 100 とした人口指数でみると、全国と長野県は 2015（平成 27）年にともに 100 を超えています。当村は 82.4 と、長野県を 21.0 ポイント下回る水準となっています。
- 世帯数は一貫して増加し続けており、2015（平成 27）年には 1,036 世帯となっています。世帯の構成をみると、核家族世帯及び一人暮らし世帯の増加により、1 世帯あたり人員は減少傾向にあります。国、県と比べると、核家族世帯、一人暮らしの割合が低く、三世帯世帯の割合が高くなっています。

【図表1】総人口の推移(南牧村)



出典：総務省「国勢調査」、2020 年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」

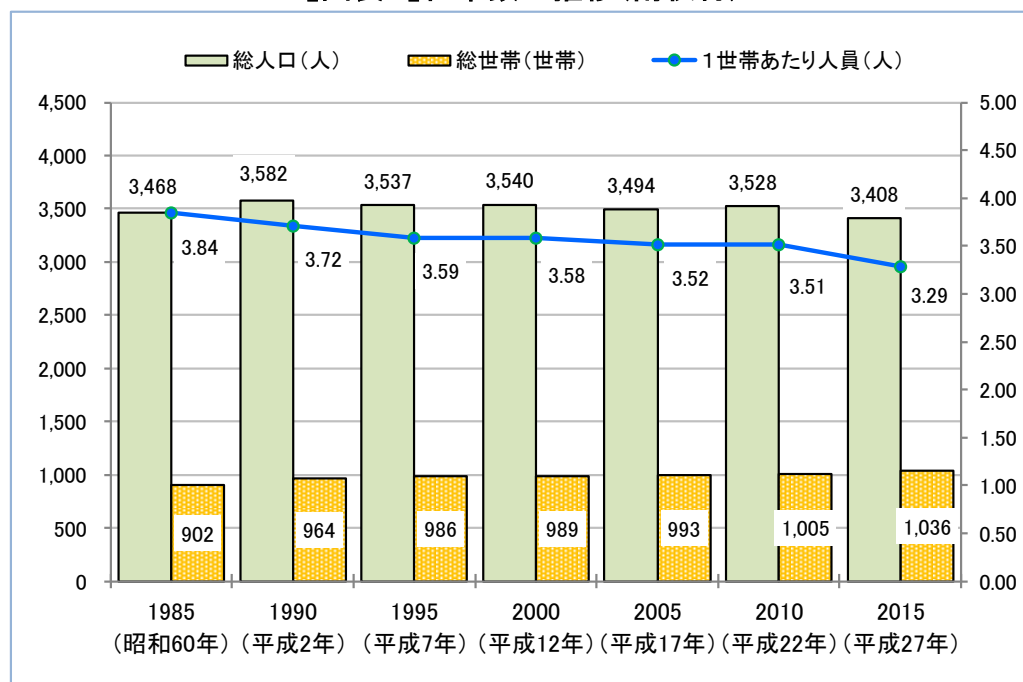
【図表2】総人口の推移(指数)



※1955年(昭和30年)=100.0

出典:総務省「国勢調査」

【図表3】世帯数の推移(南牧村)



<参考:世帯構成別世帯数の推移>

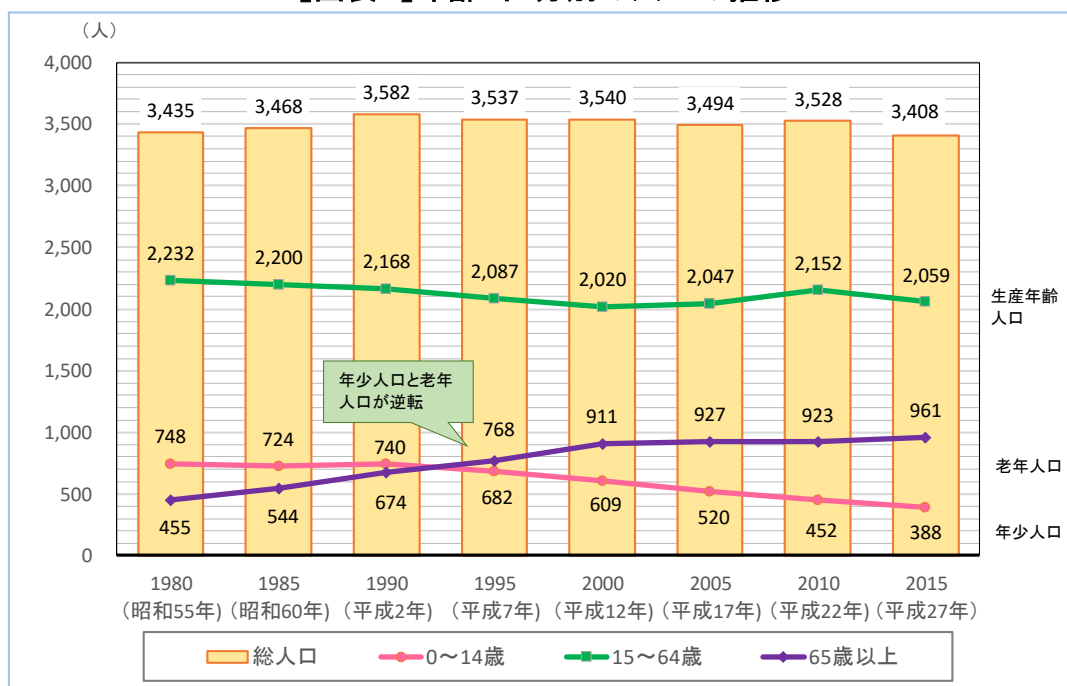
	平成22年		平成27年		長野県	全国
一般世帯数	1,003	-	1,033	-	-	-
核家族	424	42.3%	439	42.5%	57.0%	55.8%
一人暮らし	220	21.9%	258	25.0%	27.9%	34.5%
うち高齢単身者	85	8.5%	110	10.6%	10.4%	11.1%
三世帯世帯	204	20.3%	163	15.8%	9.9%	5.7%

出典:総務省「国勢調査」

(2) 年齢3区分別人口の推移

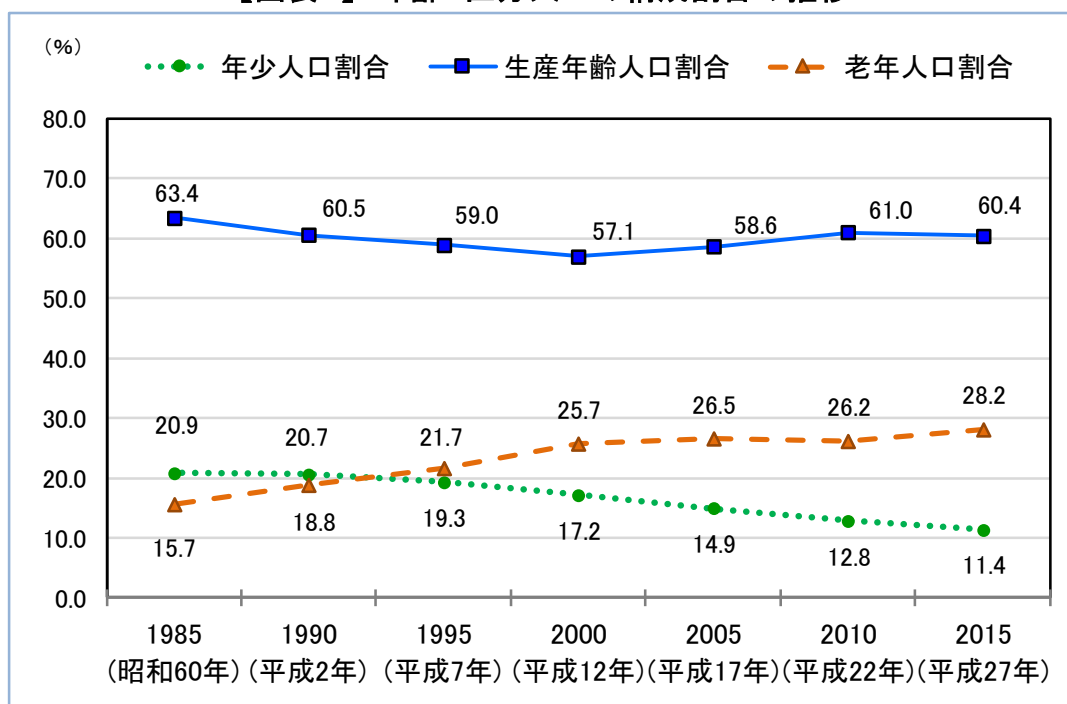
- 人口を、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分に分けて推移をみると、年少人口は一貫して緩やかに減少し、他方で人口は緩やかに増加しており、1990年代に入って年少人口と老年人口が逆転しています。生産年齢人口も減少傾向にありましたが、2000（平成12）年以降はやや増加に転じています。
- 年齢3区分別の人口構成割合をみると、2015（平成27）年の年少人口は11.4%、生産年齢人口は60.4%、老年人口は28.2%となっています。

【図表4】年齢3区分別の人口の推移



出典：総務省「国勢調査」

【図表5】年齢3区分人口の構成割合の推移



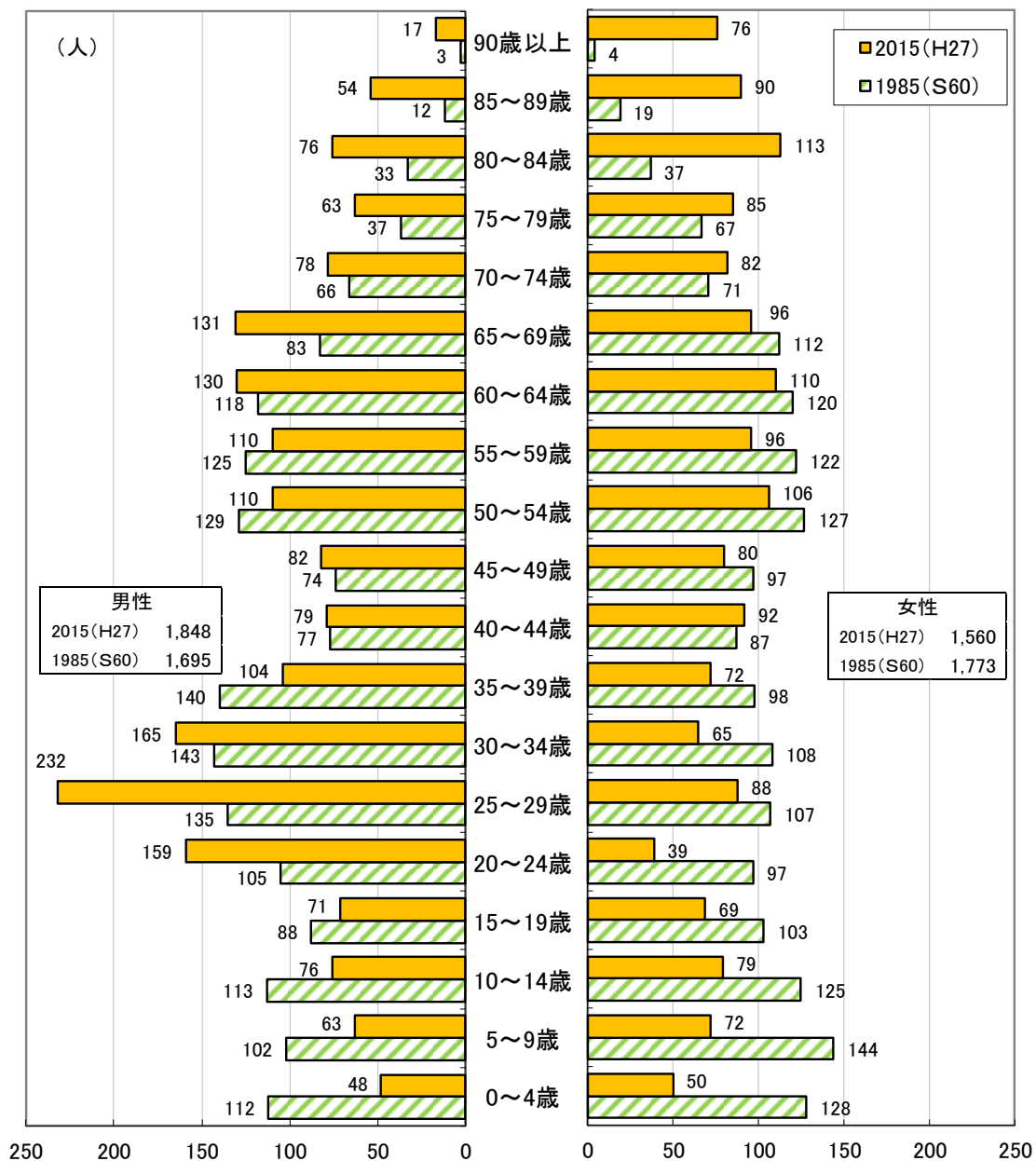
※割合は年齢不詳を除いて算出

出典：総務省「国勢調査」

(3) 人口構造の推移

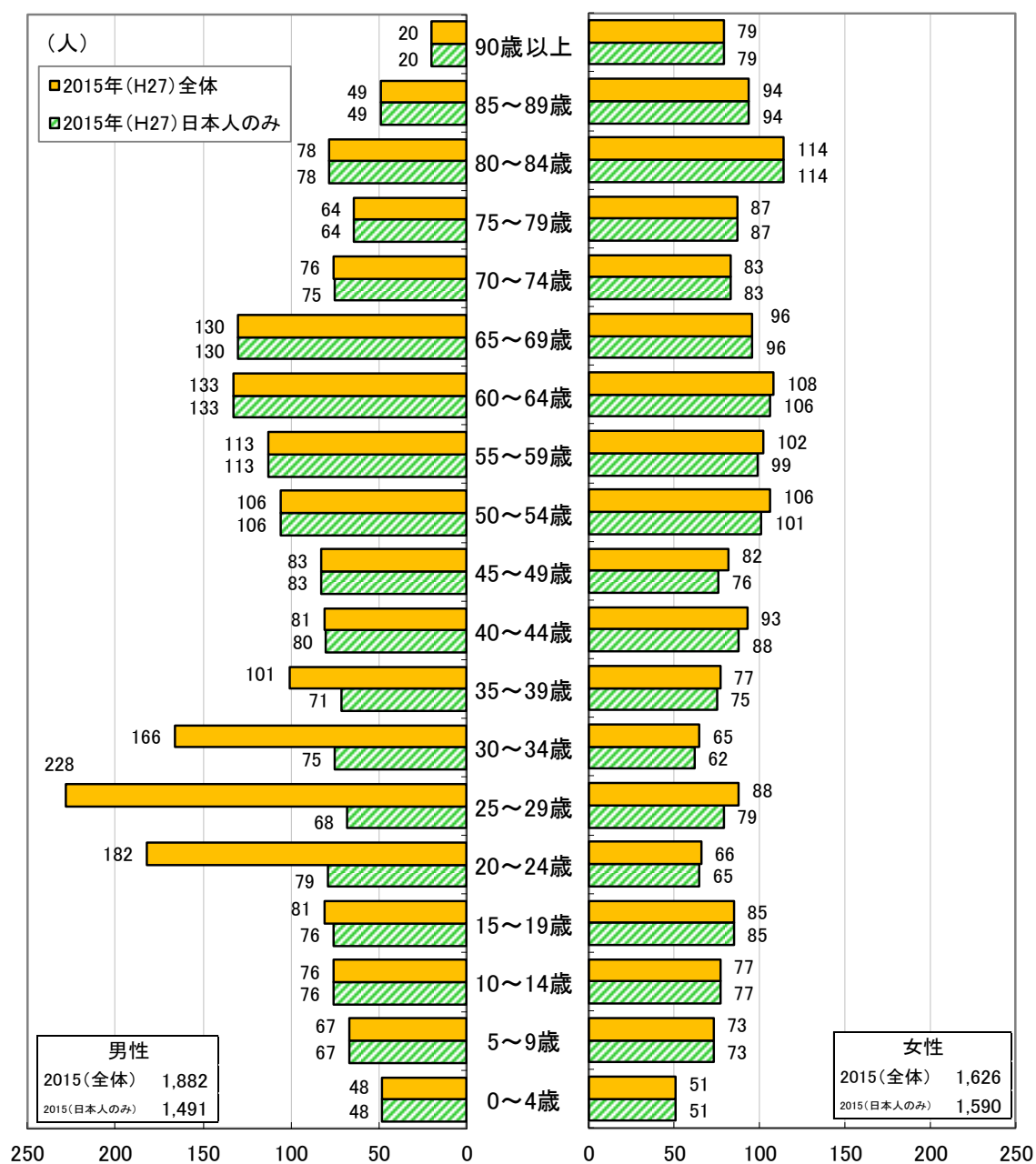
- 国勢調査における男女別・5歳階級別の人口構成の推移をみると、1985（昭和60）年では、男女とも40～49歳の年齢層が少なくなっているものの、男女間、年齢層間での人口の差は比較的小さい状態でした。30年後の2015（平成27）年では、60歳以上の増加と20歳未満の減少が顕著となっています。
- 20～34歳では男性の増加がみられ、男女間で20～39歳まで人口差が大きくなっています。これは、2006（平成18）年以降、一定期間村内に滞在して農業に携わる外国人技能実習生を多く受け入れているためと考えられます。参考までに、2015（平成27）年の住民基本台帳人口による人口構造（次ページ）をみると、20～39歳までの男性には多くの外国人が含まれていることがわかります。

【図表6】5歳階級男女別人口構造(1985年・2015年)



出典：総務省「国勢調査」

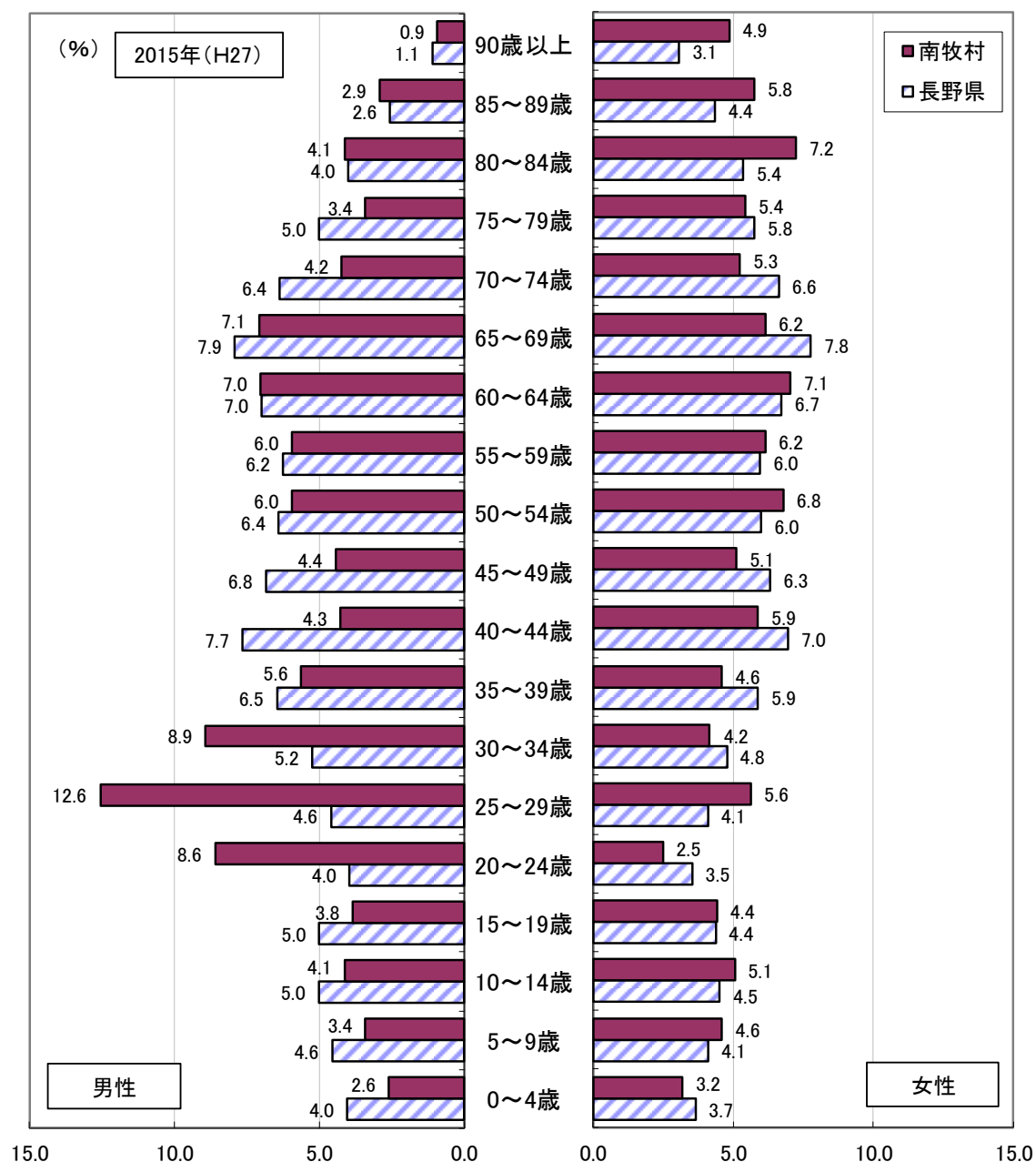
【図表7】5歳階級男女別人口構造(2015年・村全体と日本人のみとの比較)



出典：南牧村「住民基本台帳人口」

- 国勢調査における 2015（平成 27）年の人口構造について長野県と比較すると、男性では 40 代と 20 歳未満の割合が低く、女性では 80 歳以上の割合が高い状況となっています。

【図表8】5歳階級男女別人口構成比（2015 年／長野県との比較）

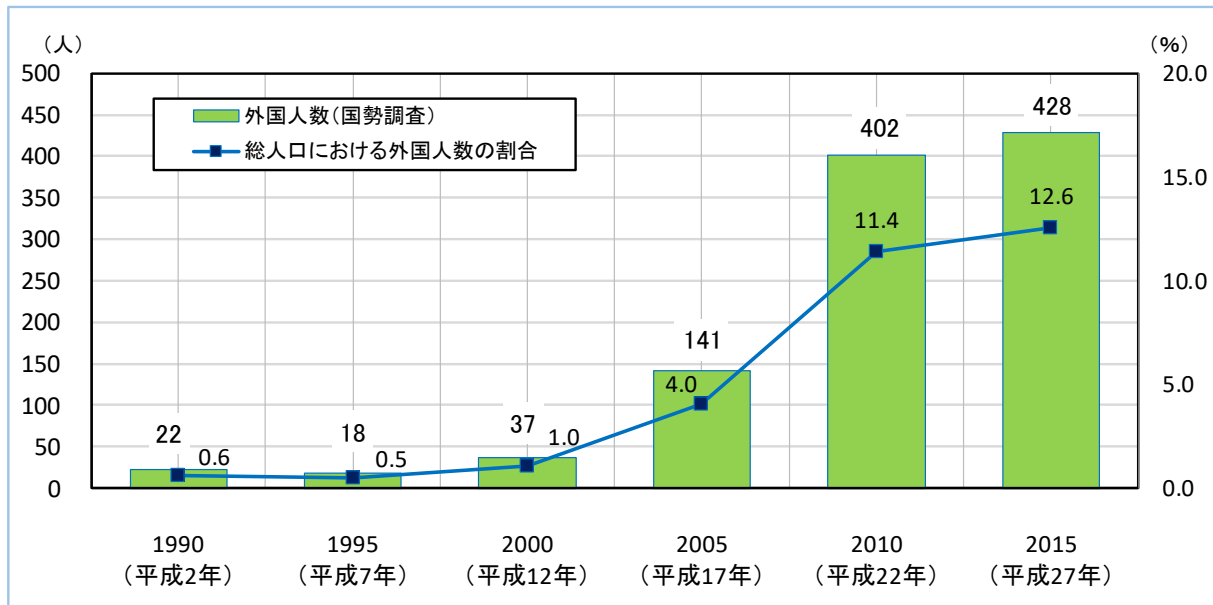


出典：総務省「国勢調査」

(4) 外国人人口の推移

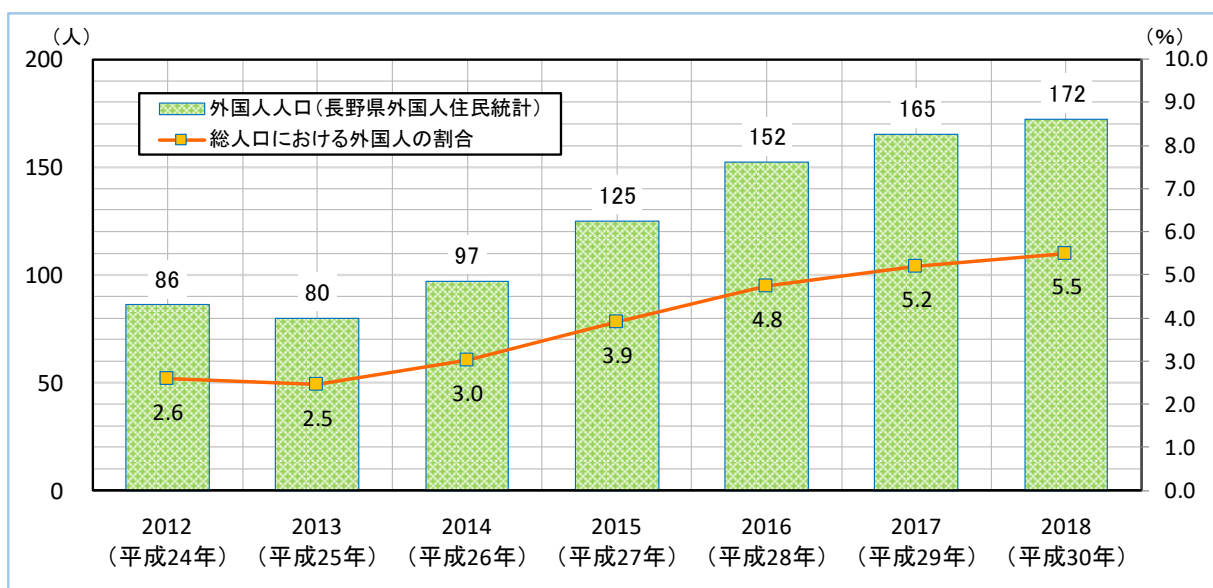
- 本村の外国人の人口について、国勢調査をみると、2015（平成 27）年は 428 人（男性 393 人・女性 35 人）と、村の総人口の 12.6%を占めており、1990（平成 2）年の 22 人（0.6%）から 15 年間で大きく増加しています。
- 長野県の外国人住民統計をみても、外国人人口は徐々に増加し、当村における 2014（平成 30）年 12 月現在の外国人住民は 172 人と、総人口の 5.5%を占めており、総人口に占める外国人住民の割合は、県内市町村の中でも上位に位置しています。

【図表9】外国人数の推移(国勢調査)



出典：総務省「国勢調査」

【図表10】外国人人口の推移(長野県外国人住民統計)



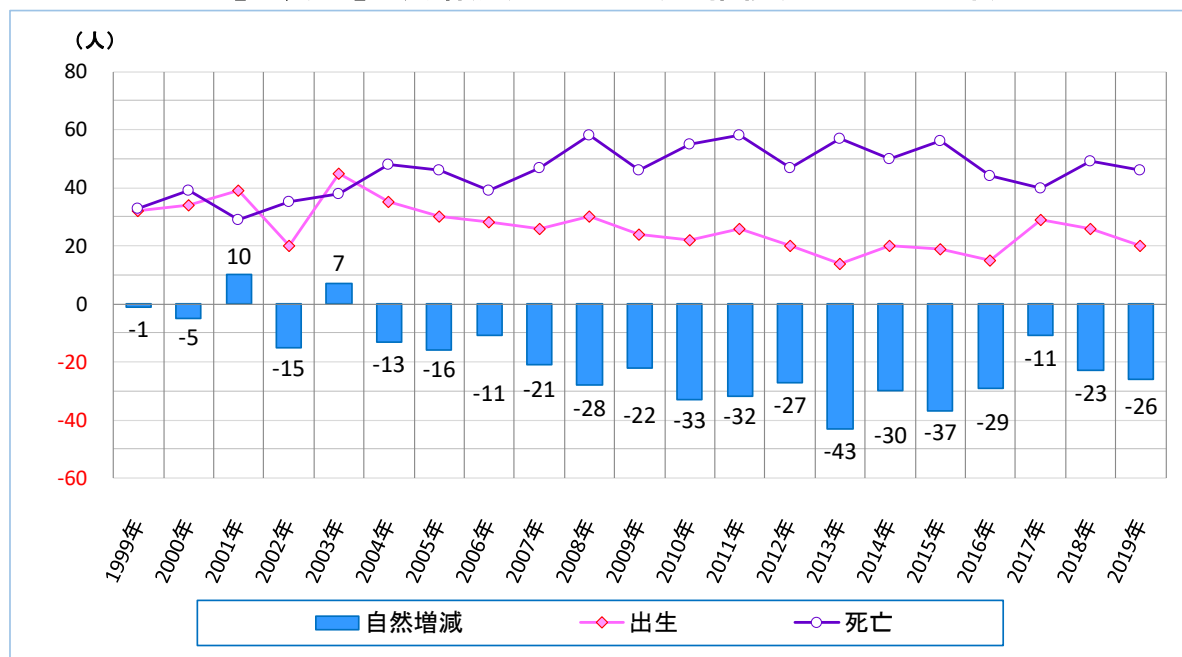
出典：長野県「外国人住民統計」

2 人口動態

(1) 出生・死亡、転入・転出の推移

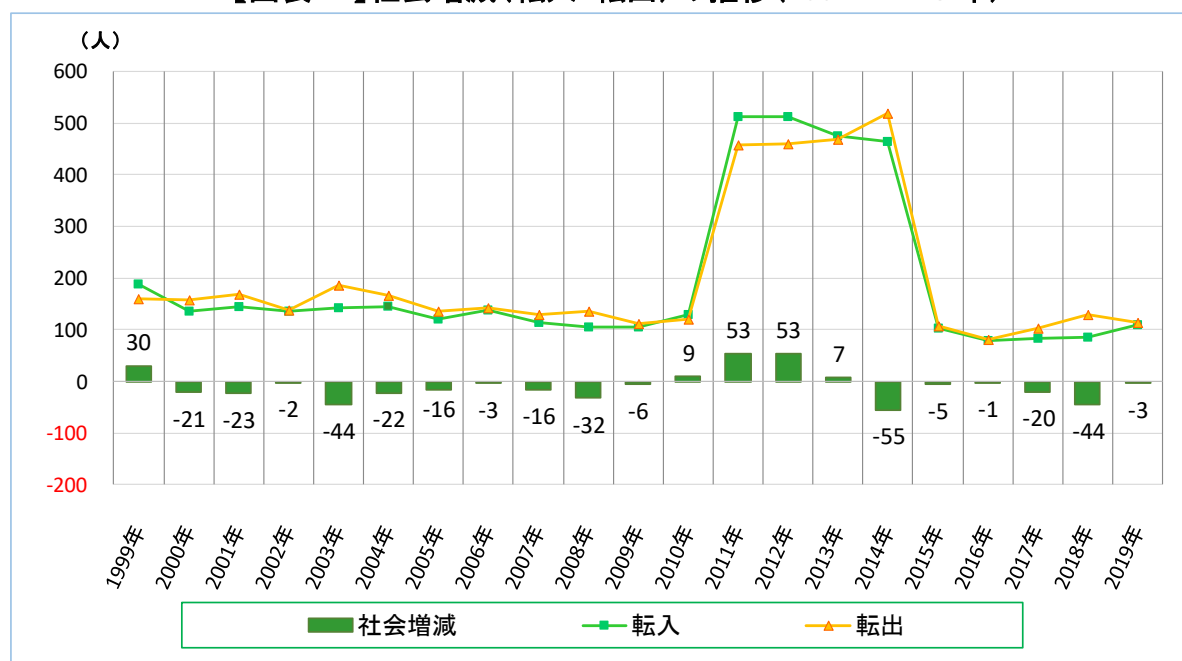
- 自然増減（出生・死亡）では、2001（平成 13）年と 2003（平成 15）年を除き、死亡数が死亡数を上回る自然減が連続しています。社会増減（転入・転出）では、2000 年（平成 12）年以降、2011（平成 23）年と 2012（平成 24）年を除き、転出が転入を上回る社会減が続いています。
- 自然増減と社会増減を合わせた人口動態の推移をみると、2000 年（平成 12）年以降、2011（平成 23）年と 2012（平成 24）年を除き、毎年減少が続いています。

【図表 11】自然増減(出生・死亡)の推移(1994～2018 年)



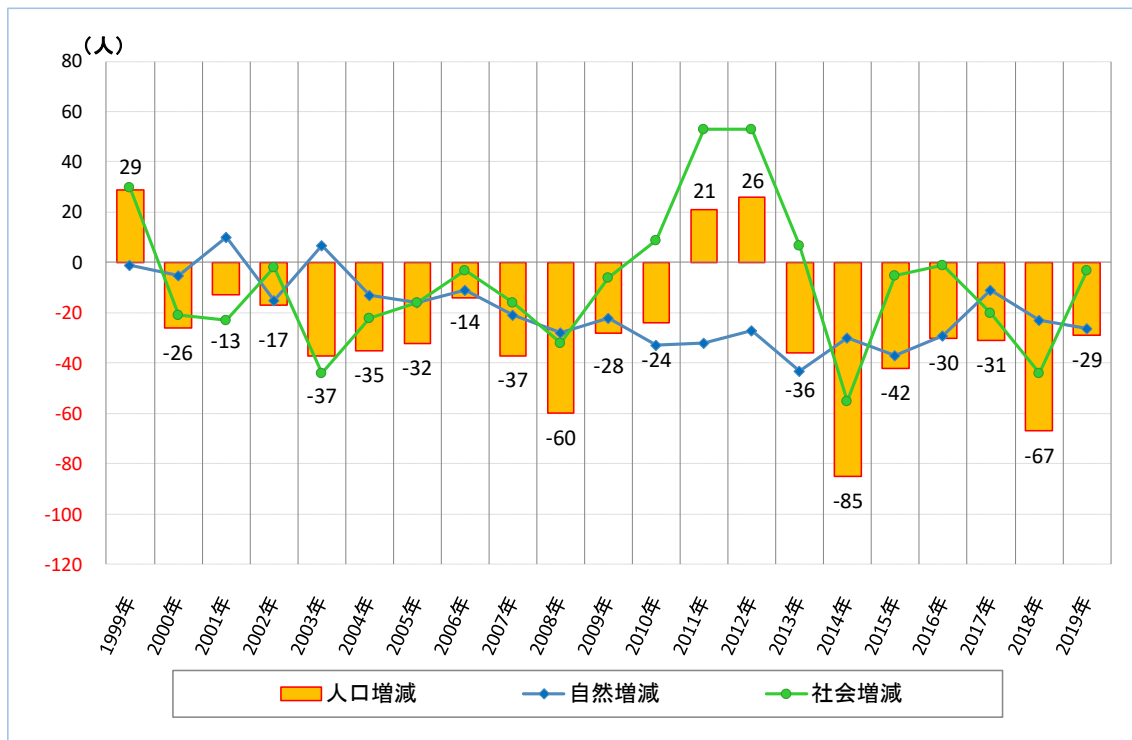
出典:南牧村「住民基本台帳」

【図表 12】社会増減(転入・転出)の推移(1994～2018 年)



出典:南牧村「住民基本台帳」

【図表 13】人口動態の推移(1994～2018 年)



出典：南牧村「住民基本台帳」

- 昼・夜間人口を見ると、本村では、昼間人口が夜間人口を上回っており、小海町や佐久市、佐久穂町など他市町村から本村へ通勤している人が多いことがわかります。
- 本村からの通勤・通学先としては佐久市が最も多く、次いで山梨県北杜市、小海町と続いています。

<参考：昼・夜間人口の推移等>

■昼・夜間人口の推移

	H17年	H22年	H27年
昼間人口	3,714	3,811	3,696
夜間人口	3,494	3,528	3,408
昼間人口比率(昼間人口/夜間人口)	106.3%	108.0%	108.5%

資料：国勢調査

■通勤・通学先別流出口（H27 年）

流出口	人数	割合
合 計	392	100.0%
佐久市へ	86	21.9%
北杜市へ	85	21.7%
小海町へ	73	18.6%
川上村へ	49	12.5%
佐久穂町へ	14	3.6%
その他へ	85	21.7%

■常住地別流入人口（H27 年）

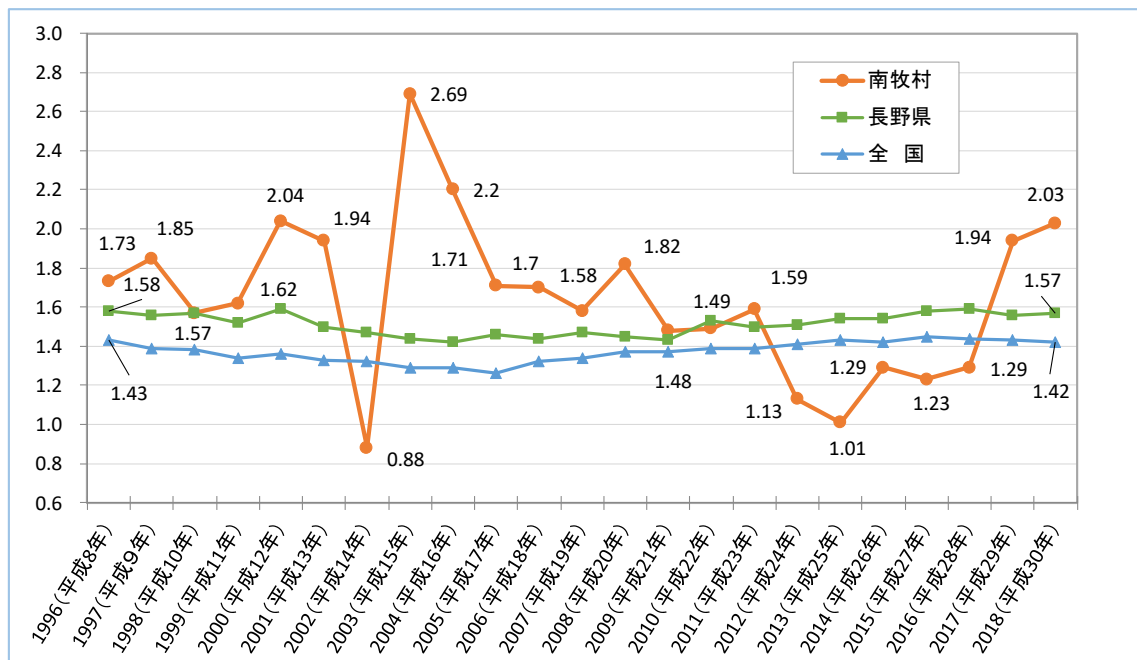
流入人口	人数	割合
合 計	679	100.0%
小海町から	163	24.0%
佐久市から	120	17.7%
佐久穂町から	108	15.9%
川上村から	77	11.3%
北杜市から	83	12.2%
その他から	128	18.9%

資料：国勢調査

(2) 合計特殊出生率の推移

- 「合計特殊出生率」(TFR)は、女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までと定め、それぞれの年齢の出生率を合計することで、一人の女性が一生に産む子どもの数を求めたものです。
- 1996(平成8)年からの合計特殊出生率の推移をみると、年によって上下はあるものの、長野県の平均や全国平均を上回る形で推移しています。2012(平成24)年からは5か年連続で長野県と全国の平均を下回る水準となりましたが、近年は上昇に転じています。

【図表 14】合計特殊出生率(TFR)の推移

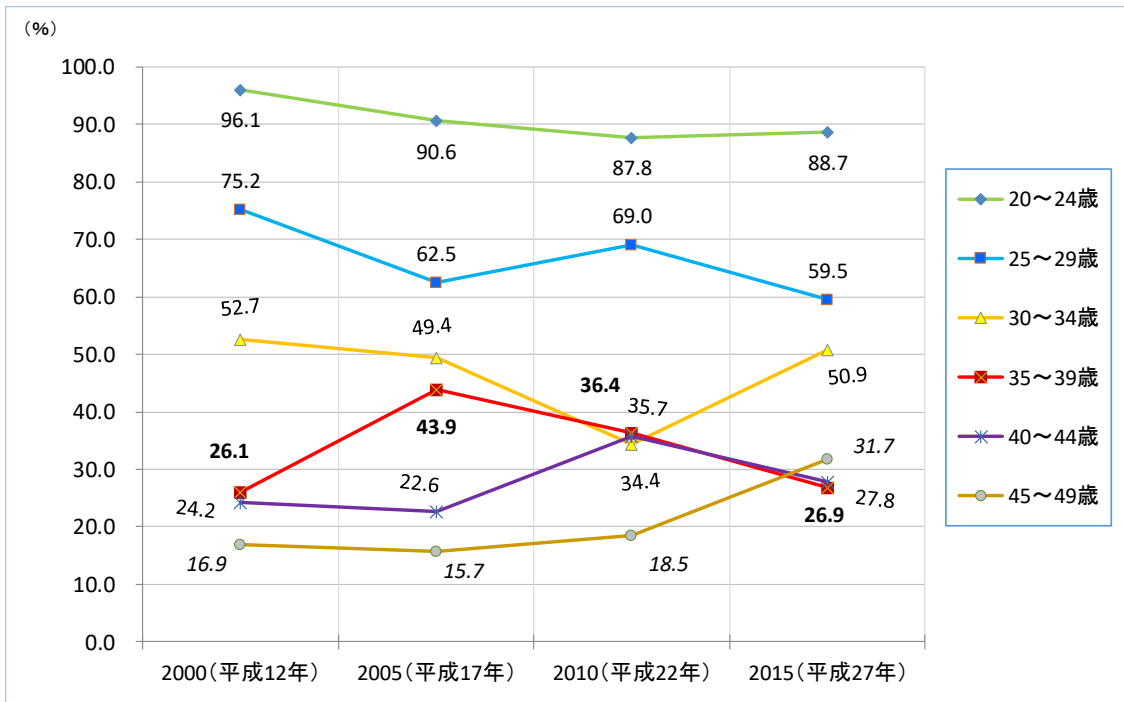


出典:「長野県衛生年報」、厚生労働省「人口動態調査」

(3) 未婚率の推移

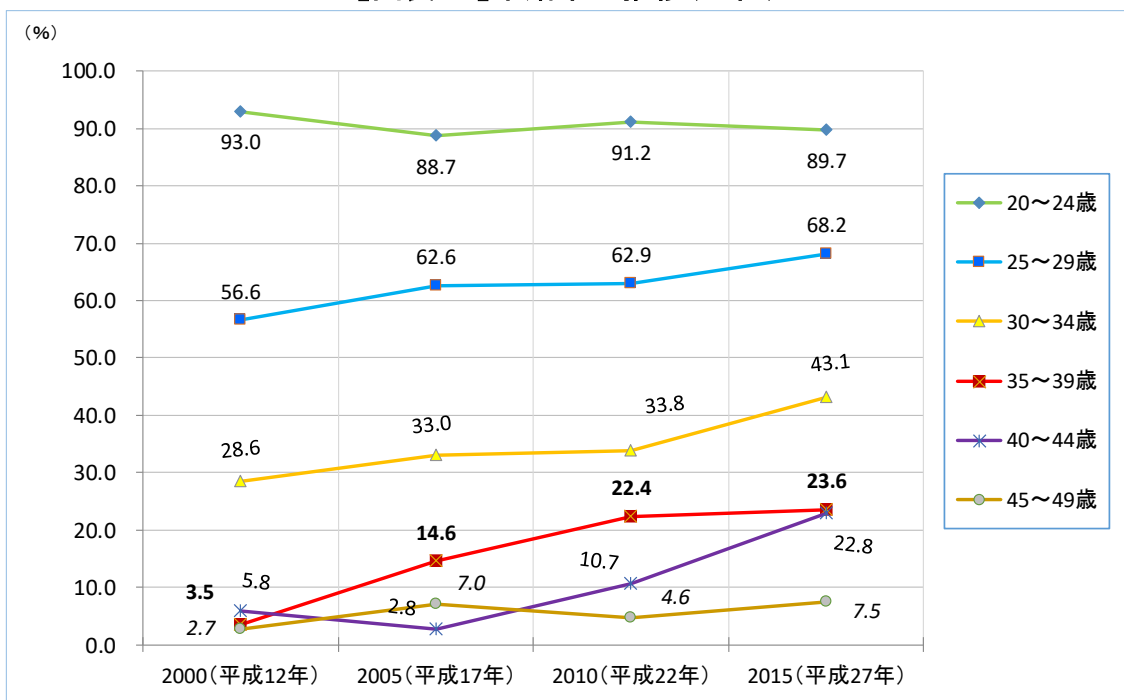
- 当村における 2000（平成 12）年から 2010（平成 22）年までの 5 歳階級別の未婚率の推移をみると、20 代～40 代の未婚率（離婚した人は含まない）は、男性は全体的には横ばいか、やや低下しているものの、45～49 歳では、2000 年（平成 12）年の約 2 倍に上昇しています。
- 女性は、20～24 歳を除いて緩やかに上昇しており、35～39 歳の層では 2000（平成 12）年の未婚率の約 6 倍となっています。

【図表 15】未婚率の推移(男性)



出典：総務省「国勢調査」

【図表 16】未婚率の推移(女性)

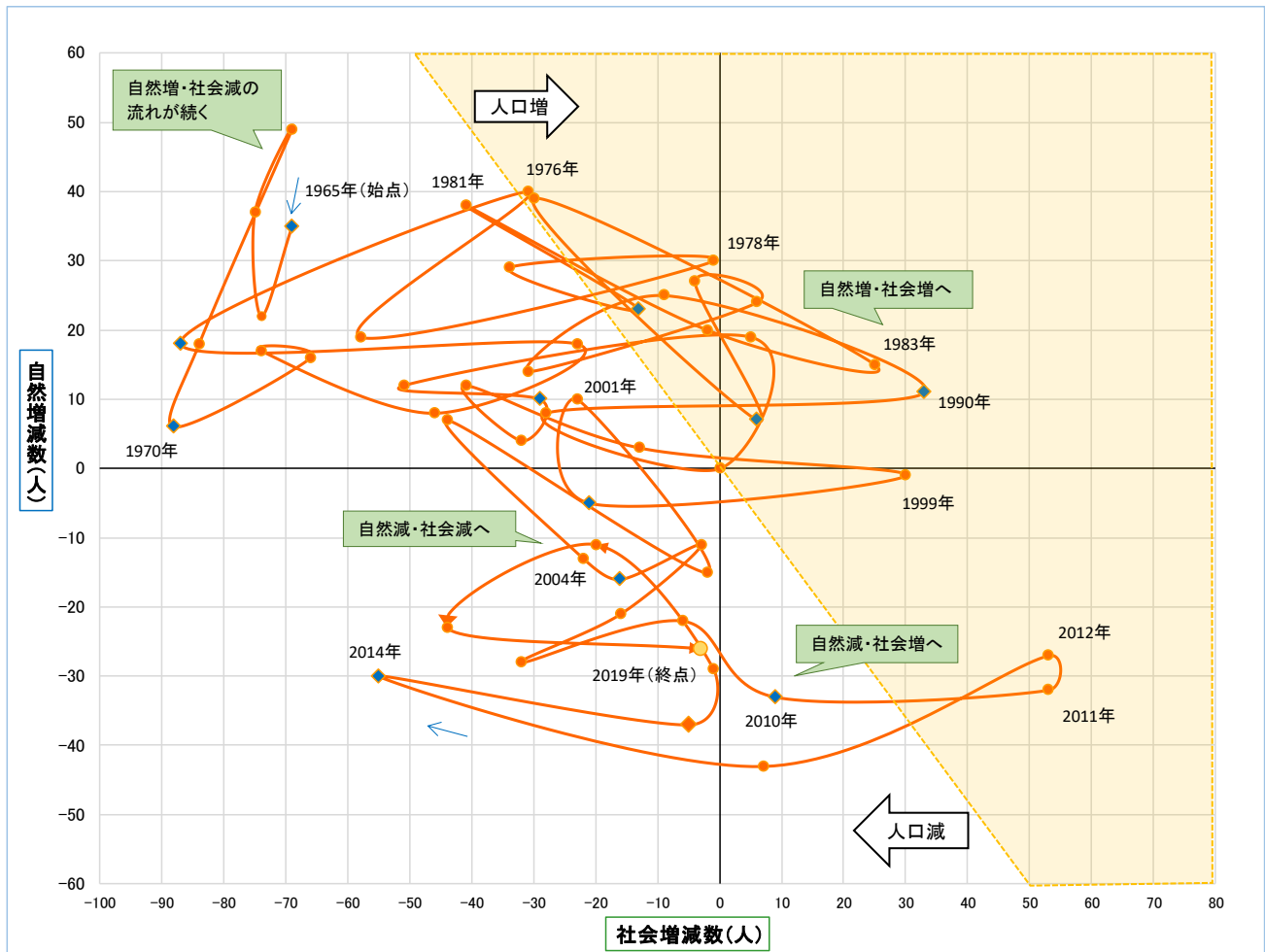


出典：総務省「国勢調査」

(4) 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- 出生・死亡数の差（自然増減）と、転入・転出数の差（社会増減）を、次のような散布図で表すと、全体として社会増減による変化の影響が大きく、近年は自然減、社会減の双方の影響から人口減少の局面に入っていることが分かります。

【図表 17】自然増減と社会増減の影響(1965～2019 年)



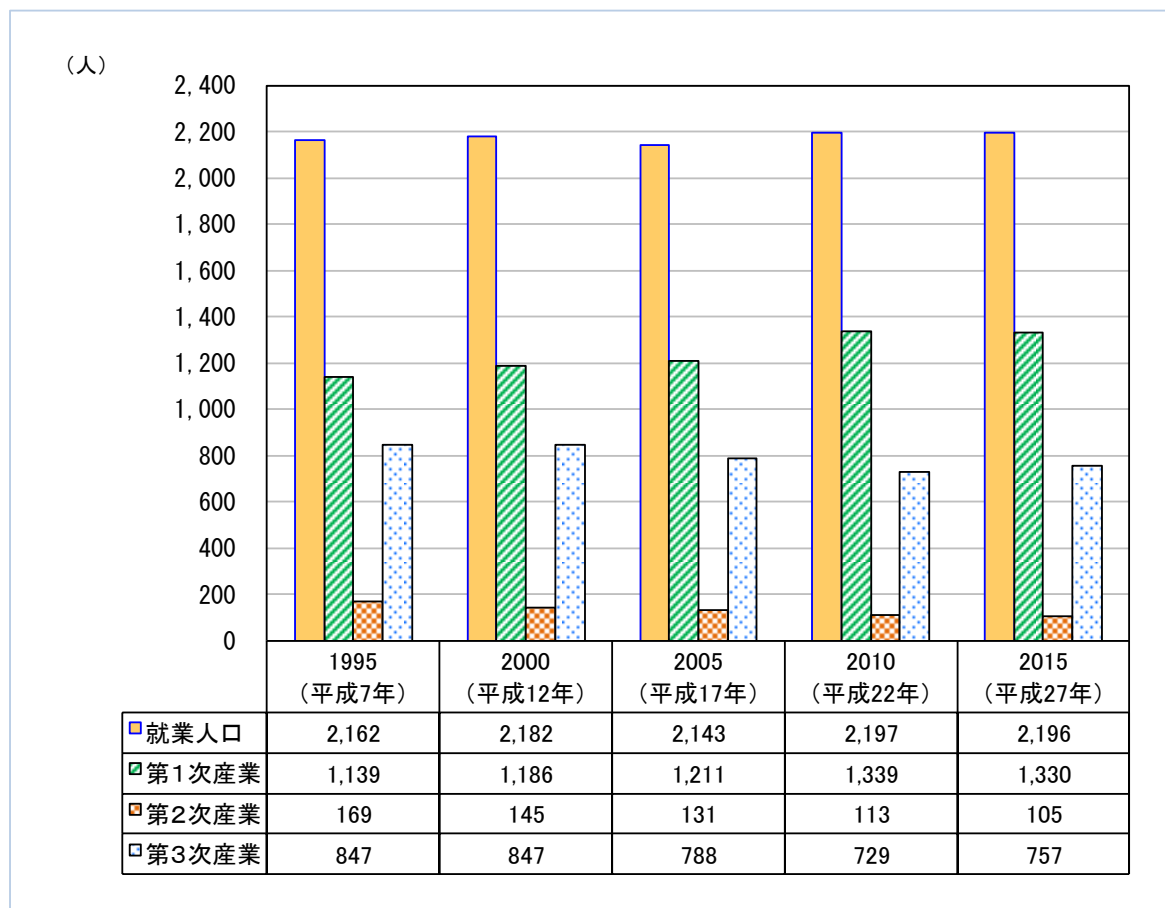
出典:南牧村「住民基本台帳」

3 就業人口

(1) 産業大分類別就業者数(15歳以上)の推移

- 15歳以上の就業者数の総数は、1995(平成7)年～2015(平成27)年の20年間で、2,100人台後半で推移しています。
- 本村の主力である農業を中心とした第1次産業の就業者数は20年間で191人の増加がみられる一方、第2次産業、第3次産業の就業者数は減少しており、特に最も少ない第2次産業の就業者の減少割合が高くなっています。

【図表 18】産業大分類別就業者数(15歳以上)

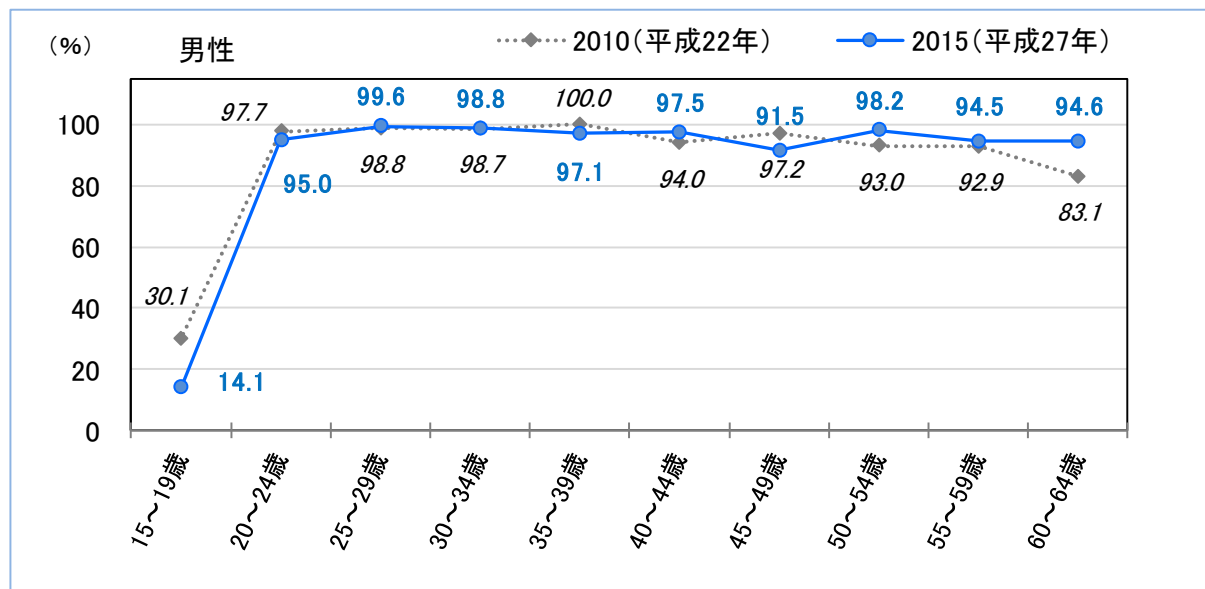


出典：総務省「国勢調査」

(2) 就業率（15 歳以上）の推移

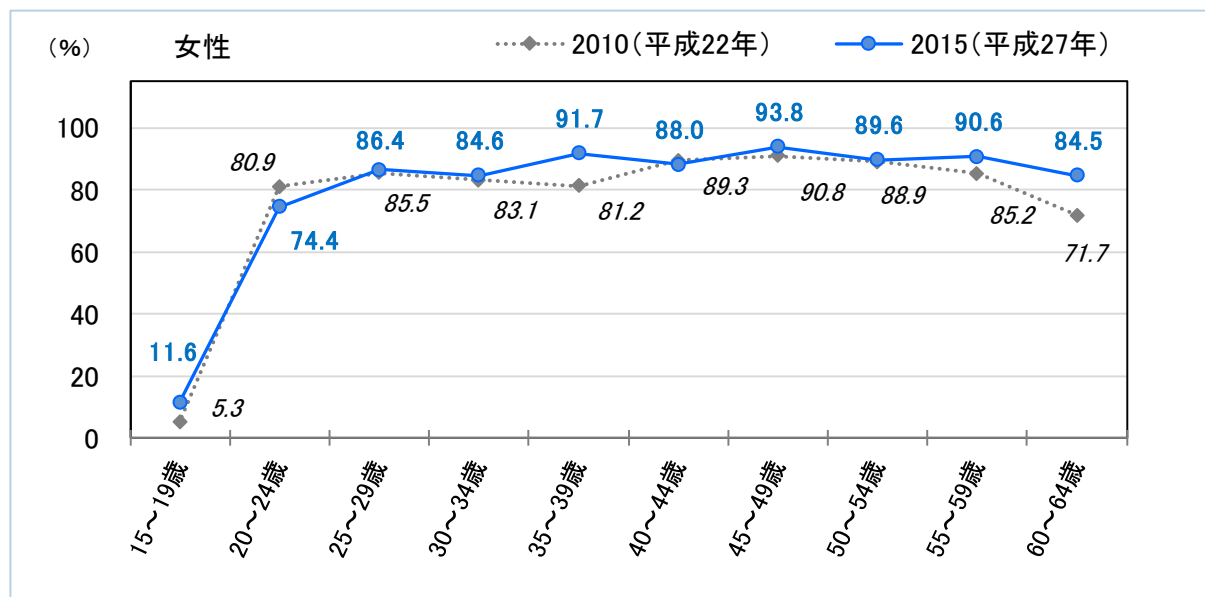
- 就業率の推移をみると、男性では、2010（平成 22）年、2015（平成 27）年ともに、20 歳以上の大半の年齢層において 90.0%前後と高い状態を維持しており、2015（平成 27）年ではさらに 60～64 歳も 10 ポイント以上増加し 94.6%となっています。
- 女性の就業率は、2010（平成 22）年、2015（平成 27）年ともに、20 歳以上の大半の年齢層において 80.0%前後と高い状態を維持しており、2015（平成 27）年ではさらに 35～39 歳、60～64 歳で 10 ポイント以上の増加がみられています。

【図表 19】男女 5 歳階級別就業率(男性)



出典：総務省「国勢調査」

【図表 20】男女 5 歳階級別就業率(女性)



出典：総務省「国勢調査」

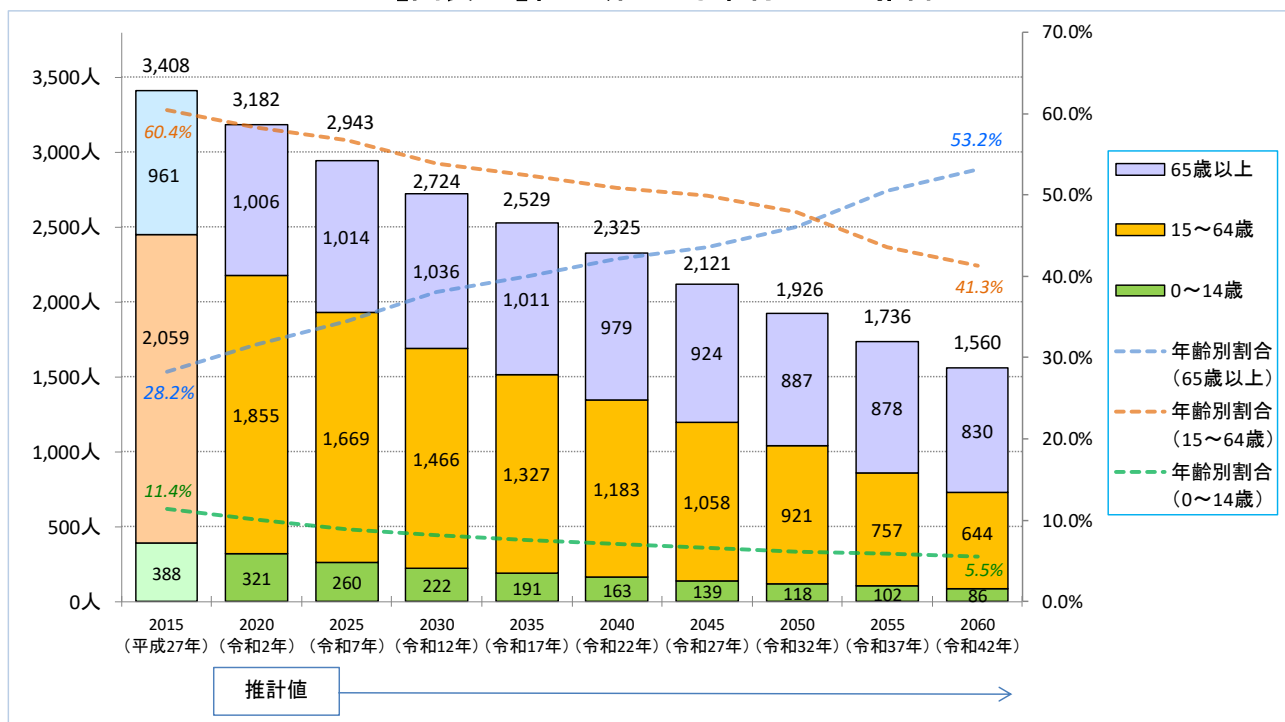
第3章 人口推計と将来展望

1 将来人口推計

(1) 総人口・年齢別人口の推計

- 国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推定値を用い、南牧村の将来人口を推計すると、2040（令和22）年には人口は2,500人を下回り、2050（令和32）年には2,000人を下回るなど、人口減少は加速度的に進行していくことがわかります。年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）がいずれも減少する中で、老年人口（65歳以上）は増加を続け、老年人口割合は2060（令和42）年には53.2%に達し、2015（平成27）年に比べて約25%上昇すると見込まれています。
- 推計方法は、コーホート要因法を基礎としています。コーホート要因法は、基本的な属性である男女・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計する方法です。

【図表 21】社人研による本村の人口推計

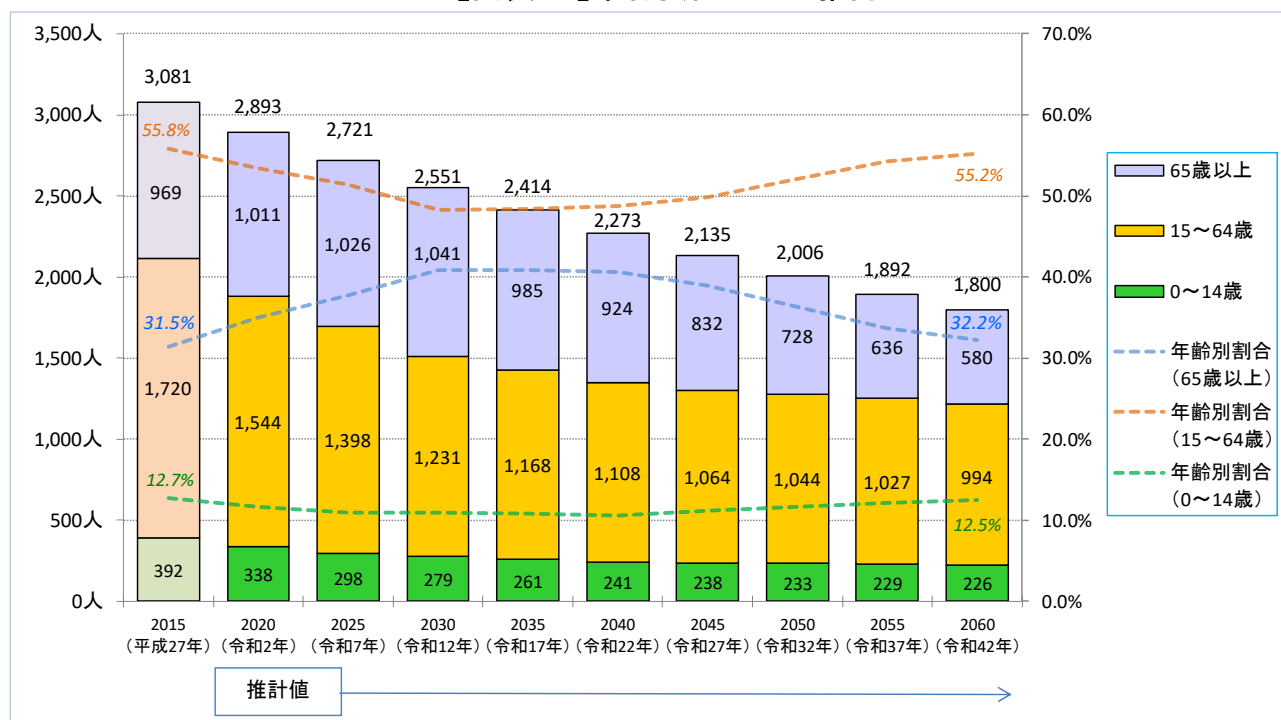


出典：国立社会保障・人口問題研究所 提供資料

(2) 本村独自の将来人口推計

- 前記の「社人研」の推定値は国勢調査を基にしているため、実際には定住していない外国人技能実習生等を多く含む人口推計であることから、2015（平成 27）年に南牧村人口ビジョンを最初に策定した際に採用した手法を踏襲し、住民基本台帳から外国人農業実習生を除いた定住人口を抽出し、これを基に本村独自の将来人口推計を行いました。
- 当推計では、南牧村第 1 期総合戦略の成果が表れてきているとの認識から、現行の推計の考え方を維持し、合計特殊出生率については、2020（令和 2）年は当村における過去 5 年間の平均値である 1.56、その後は徐々に上昇し、2025（令和 7）年に 1.84（長野県民希望出生率）を実現して、これが安定的に継続するものと仮定しています。人口移動は、2014（平成 26）年から 2019（令和元）年の純移動率が 2030（令和 12）年まで同水準で続くものの、その後は均衡して社会増減がゼロになると仮定しています。これによると、年齢 3 区分別構成割合は、2060（令和 42）年まで年少人口 10%台前半を維持しながら推移し、老年人口も 30%台前半にとどまる見込みとなっています。

【図表 22】本村独自の人口推計



2 人口の将来展望にかかる村民意識等

(1) 地方創生に関するアンケート調査の概要

本村では、人口減少社会への対応と地方創生に向け、平成 27（2015）年度に将来人口の展望「南牧村人口ビジョン」と 5 年間の対策計画「南牧村総合戦略」を策定しました。

本調査は、「南牧村総合戦略」が令和元（2019）年度で第 1 期の計画期間を終了するのに伴い、これまでの取組みの評価と第二の戦略立案にあたっての基礎資料とするために実施したものです。

- 調査地域：村内全域
- 調査対象者：
村内在住の 19 歳以上 50 歳未満の方全員を対象（以下、「住民アンケート」という。）
村内の企業・事業所を対象（以下、「企業アンケート」という。）
- 調査期間：
住民アンケート：令和元年 8 月 13 日（火）～令和元年 9 月 23 日（月）
企業アンケート：令和元年 8 月 13 日（火）～令和元年 9 月 23 日（月）
- 調査方法：
郵送による配布・回収
- 回収状況：

種別	配布数	有効回収数	有効回収率
住民アンケート	800票	221票	27.6%
企業アンケート	40票	20票	50.0%

- 報告書の見方：
 - ・回答結果の割合「％」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
 - ・複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
 - ・本文、図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
 - ・図表中の「n（number of case）」は、集計対象となった回答者数（あるいは回答者を限定する設問の限定条件に該当する人）を表しています。
 - ・平成 27（2015）年度調査（以下、「前回調査」という。）と同じ設問については、比較できるように構成しています。

(2) 住民アンケートの調査結果

住民アンケート調査について、主な設問の結果を以下に抜粋して掲載します。

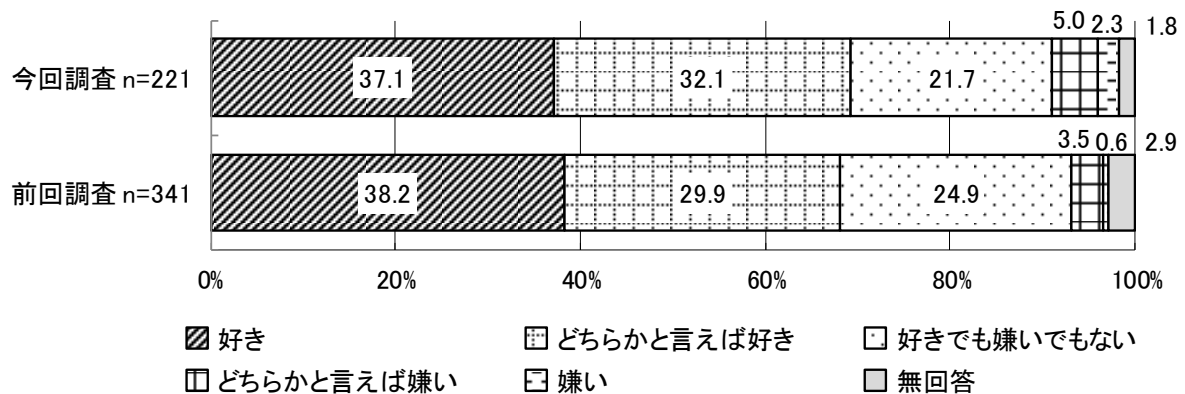
内容の詳細については、「南牧村地方創生に関するアンケート調査結果報告書（令和2年3月）」をご参照ください。

①南牧村に対して

「あなたは、南牧村が好きですか。（1つに○）」

- 本村の好感度は、「好き」が 37.1%と最も多く、次いで「どちらかと言えば好き」（32.1%）、「好きでも嫌いでもない」（21.7%）、「どちらかと言えば嫌い」（5.0%）、「嫌い」（2.3%）と続いています。
- 前回調査と比べると、『好き』は今回調査が69.2%、前回調査が68.1%、『嫌い』は今回調査が7.3%、前回調査が4.1%となっています。

※『好き』は「好き」と「どちらかと言えば好き」を、『嫌い』は「嫌い」と「どちらかと言えば嫌い」をそれぞれ足し合わせたもの



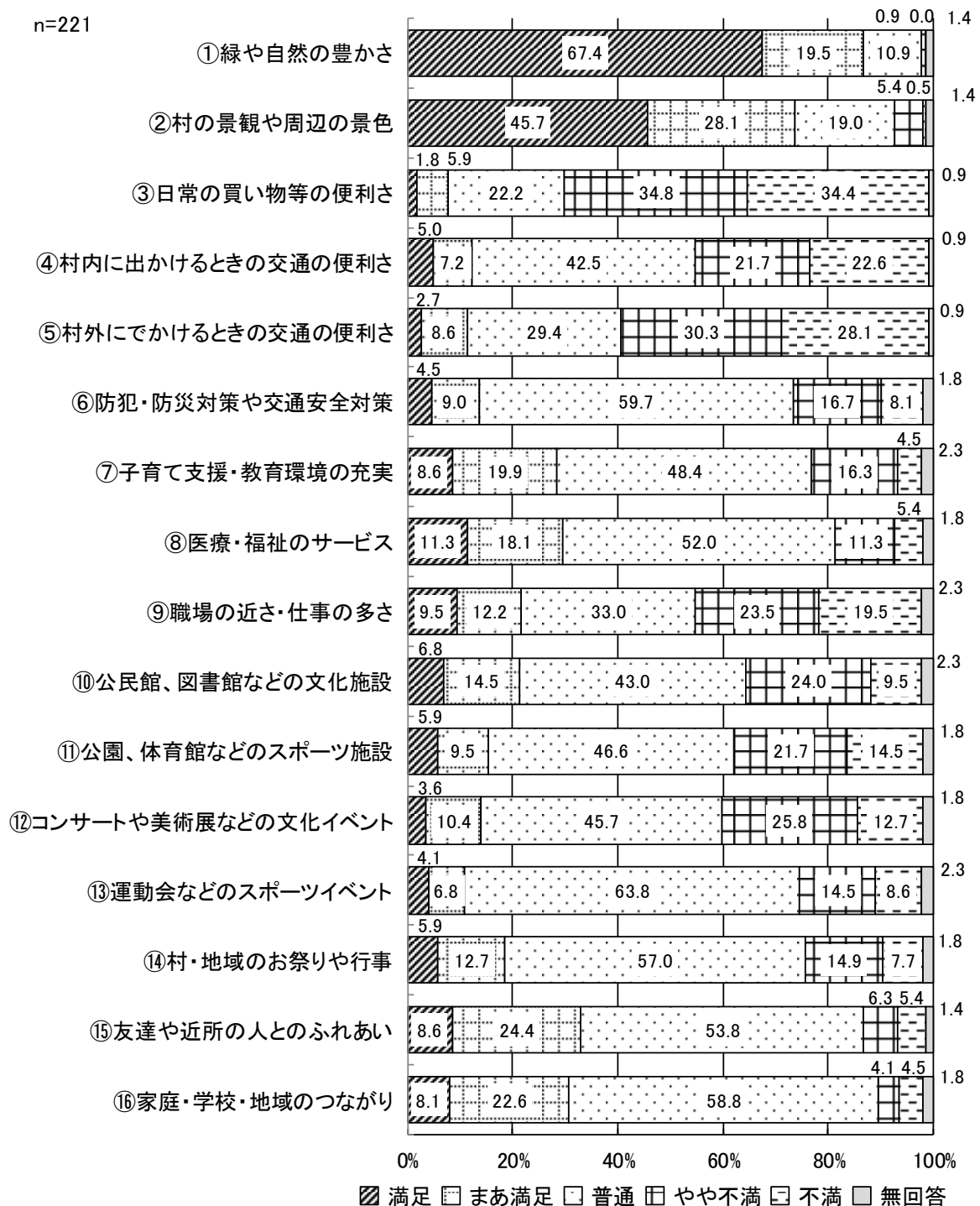
問1 あなたは、南牧村が好きですか。（1つに○）

S/5	n数	好き	どちらか と言えば 好き	好きでも 嫌いでも ない	どちらか と言えば 嫌い	嫌い	無回答
全体	221	82	71	48	11	5	4
	100.0%	37.1%	32.1%	21.7%	5.0%	2.3%	1.8%
年齢× 性別	19歳 男性	7	4	1	2	0	0
		100.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%
	19歳 女性	6	5	1	0	0	0
		100.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳 男性	14	4	6	3	1	0
		100.0%	28.6%	42.9%	21.4%	7.1%	0.0%
	20～24歳 女性	19	7	7	5	0	0
		100.0%	36.8%	36.8%	26.3%	0.0%	0.0%
	25～29歳 男性	5	1	1	0	3	0
		100.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%
	25～29歳 女性	14	7	2	3	2	0
		100.0%	50.0%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%
	30～34歳 男性	14	6	3	3	1	1
		100.0%	42.9%	21.4%	21.4%	7.1%	7.1%
	30～34歳 女性	29	10	12	5	1	1
		100.0%	34.5%	41.4%	17.2%	3.4%	3.4%
	35～40歳 男性	11	3	3	4	0	1
		100.0%	27.3%	27.3%	36.4%	0.0%	9.1%
	35～40歳 女性	22	5	11	5	1	0
		100.0%	22.7%	50.0%	22.7%	4.5%	0.0%
	40歳以上 男性	26	13	11	2	0	0
		100.0%	50.0%	42.3%	7.7%	0.0%	0.0%
	40歳以上 女性	51	17	12	16	2	2
		100.0%	33.3%	23.5%	31.4%	3.9%	3.9%

「南牧村の環境について、どの程度満足していますか。（それぞれ〇は1つ）」

- 本村の環境について、『満足』は「緑や自然の豊かさ」が 86.9%と最も高く、次いで「村の景観や周辺の景色」（73.8%）、「友達や近所の人とのふれあい」（33.0%）と続いています。一方で、『不満』は「日常の買い物等の便利さ」が 69.2%と最も高く、次いで「村外にでかけるときの交通の便利さ」（58.4%）、「村内に出かけるときの交通の便利さ」（44.3%）、「職場の近さ・仕事の多さ」（43.0%）と続いています。

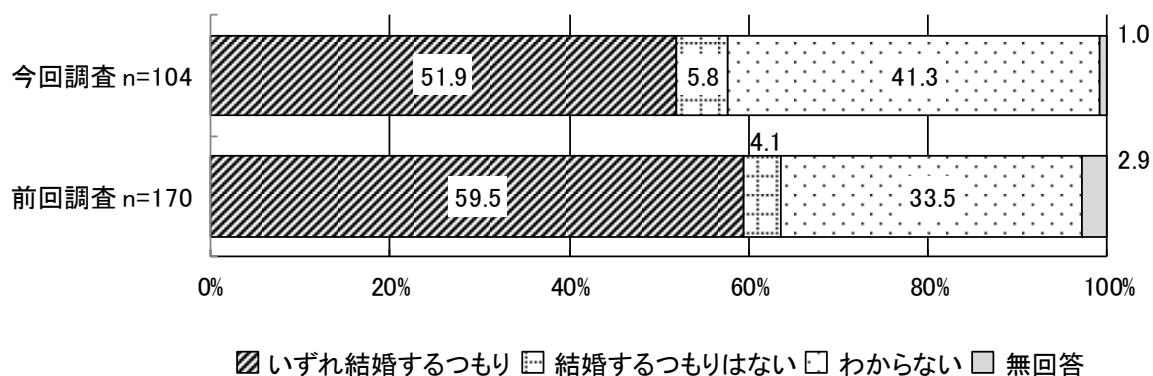
※『満足』は「満足」と「まあ満足」を、『不満』は「不満」と「やや不満」をそれぞれ足し合わせたもの



②結婚に関する意向

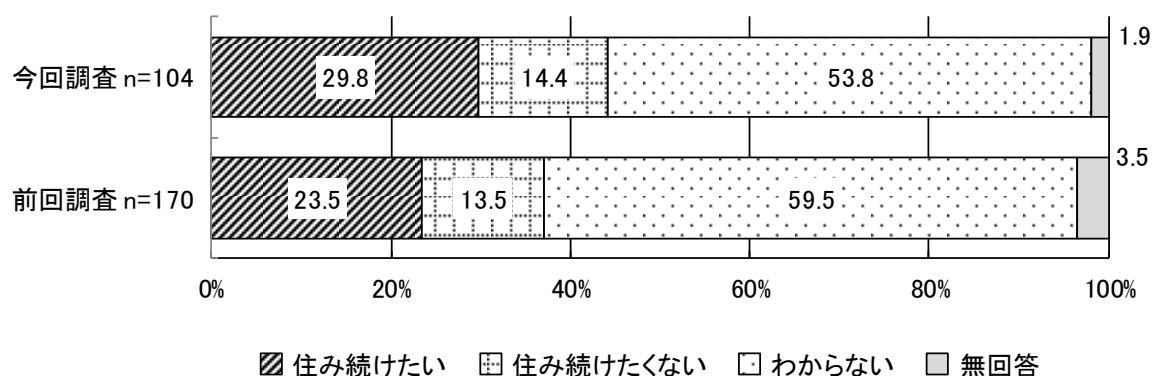
「今後の結婚に関するあなたの希望は次のうち、どれにあてはまりますか。（1つに○）」

- 現在、独身の方の結婚希望は、「いずれ結婚するつもり」が51.9%と最も多く、次いで「わからない」（41.3%）、「結婚するつもりはない」（5.8%）、「無回答」（1.0%）となっています。
- 前回調査と比べると、「いずれ結婚するつもり」が7.6%減少し、「わからない」が7.8%増加しています。



「結婚後も南牧村に住み続けたいと思いますか。（1つに○）」

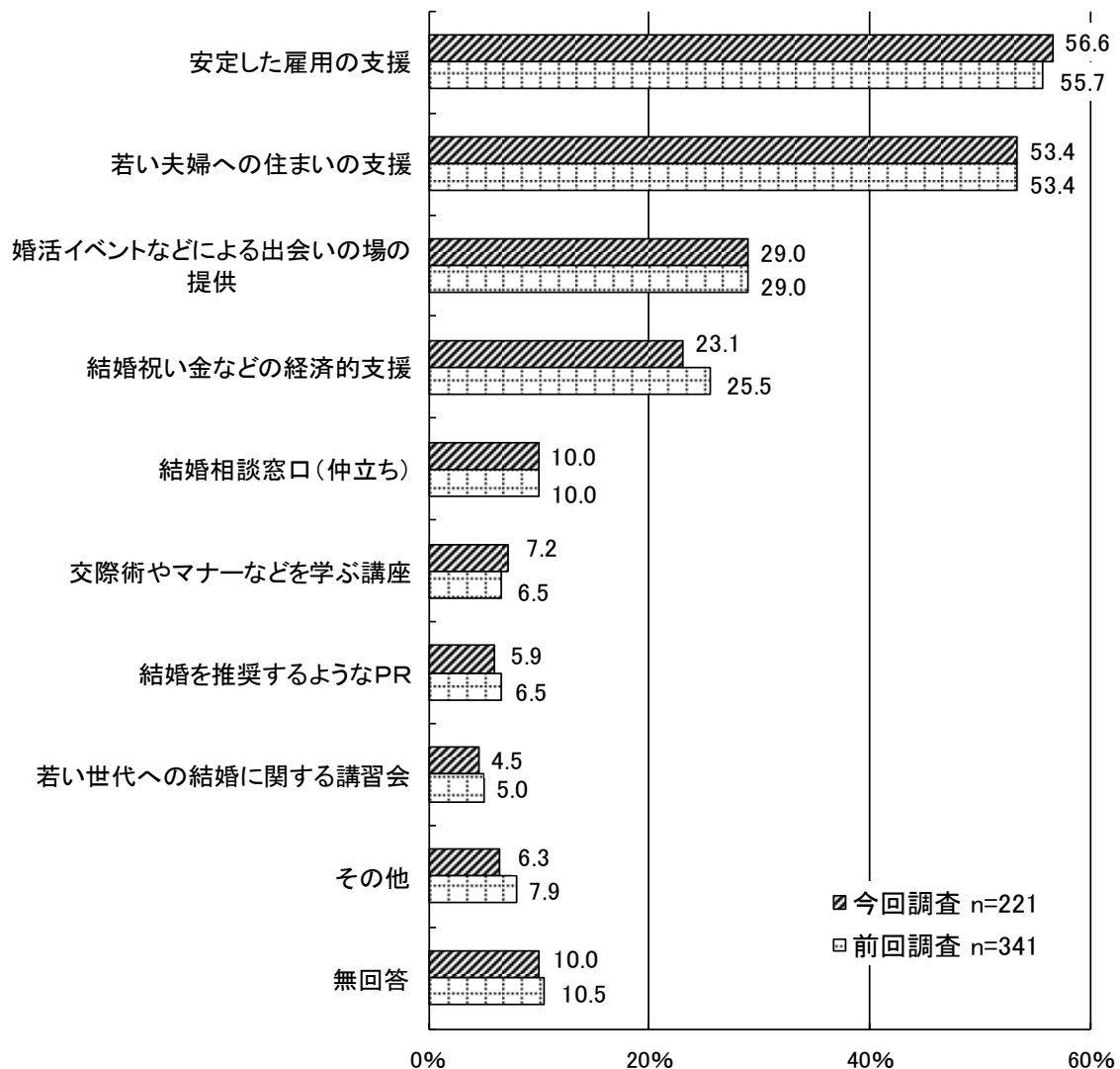
- 結婚後の本村への定住意向は、「わからない」が53.8%と最も多く、次いで「住み続けたい」（29.8%）、「住み続けたくない」（14.4%）、「無回答」（1.9%）となっています。
- 前回調査と比べると、「住み続けたい」が6.3%増加し、「わからない」が5.7%減少しています。



「南牧村が重点的に取り組むべき結婚支援の事業は何だと思われますか。」

（あてはまるものすべてに○）」

- 本村が重点的に取り組むべき結婚支援の事業は、「安定した雇用の支援」が 56.6%と最も多く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」（53.4%）、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」（29.0%）と続いています。
- 前回調査と比べると、大きな違いは見られません。。

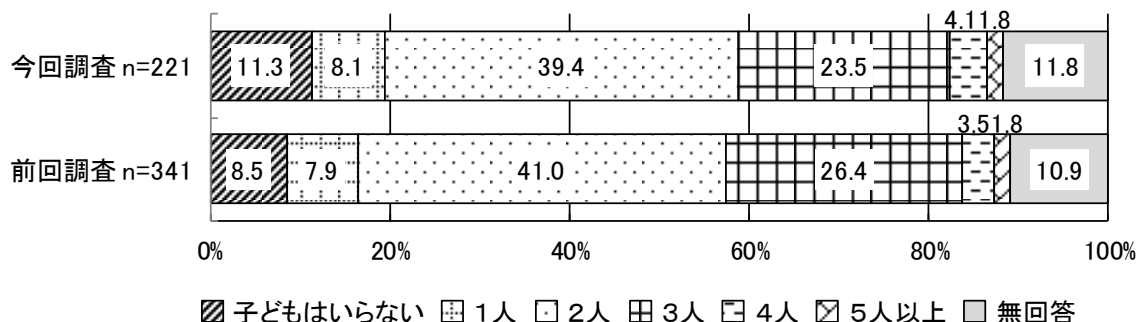


③出産・育児に関する意向

「将来的に何人のお子さんを持つご予定ですか（現在いるお子さんの人数も含む）。

（1つに○）」

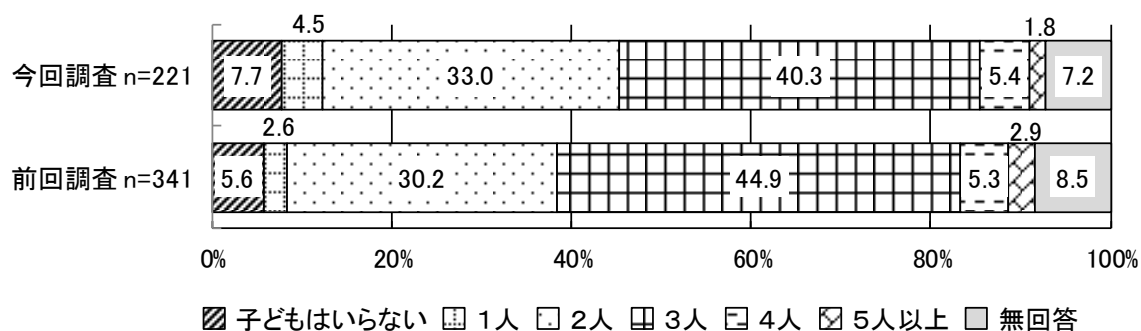
- 将来的に予定しているお子さんの人数は、「2人」が39.4%と最も多く、次いで「3人」（23.5%）、「子どもはいらない」（11.3%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「子どもはいらない」が2.8%増加しており、全体的に見ても、将来的に予定しているお子さんの人数が減少していることがうかがえます。



「あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか（現在いるお子さんの人数も含む）。

（1つに○）」

- 理想的な子どもの人数は、「3人」が40.3%と最も多く、次いで「2人」（33.0%）、「子供はいらない」（7.7%）と続いています。
- 前回調査と比べると、全体的に見て、理想の子どもの人数がやや減少していることがうかがえます。
- 将来的に予定している子どもの人数別に見ると、2人以下を予定している層において、理想の子どもの人数の方が上回っています。

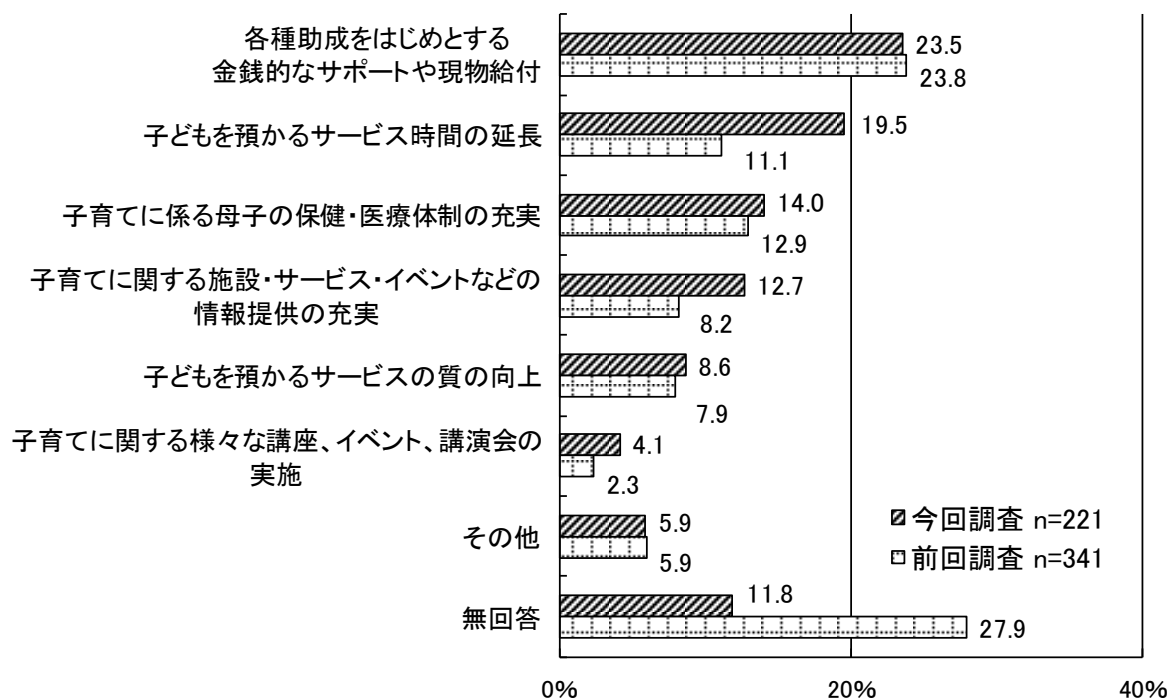


問7 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか（現在いるお子さんの人数も含む）。（1つに○）

S/6	n数	子どもはいらない	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体	221	17	10	73	89	12	4	16
	100.0%	7.7%	4.5%	33.0%	40.3%	5.4%	1.8%	7.2%
将来的に予定している子どもの人数	子どもはいらない	25	17	0	3	5	0	0
		100.0%	68.0%	0.0%	12.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	1人	18	0	8	6	3	1	0
		100.0%	0.0%	44.4%	33.3%	16.7%	5.6%	0.0%
	2人	87	0	1	54	30	1	0
		100.0%	0.0%	1.1%	62.1%	34.5%	1.1%	0.0%
	3人	52	0	0	4	45	3	0
		100.0%	0.0%	0.0%	7.7%	86.5%	5.8%	0.0%
5人以上	4人	9	0	0	0	3	5	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	55.6%	11.1%
	5人以上	4	0	0	1	0	3	0
	100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%

「今後、育児に関するサービスとして、南牧村が最も力を入れるべきだと思うのは次のうち、どれですか。（1つに○）」

- 南牧村が最も力を入れるべきだと思う育児に関するサービスは、「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が 23.5%と最も多く、次いで「子どもを預かるサービス時間の延長」（19.5%）、「子育てに係る母子の保健・医療体制の充実」（14.0%）、「子育てに関する施設・サービス・イベントなどの情報提供の充実」（12.7%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「子どもを預かるサービス時間の延長」が 8.4%、「子育てに関する施設・サービス・イベントなどの情報提供の充実」が 4.5%、それぞれ増加しています。

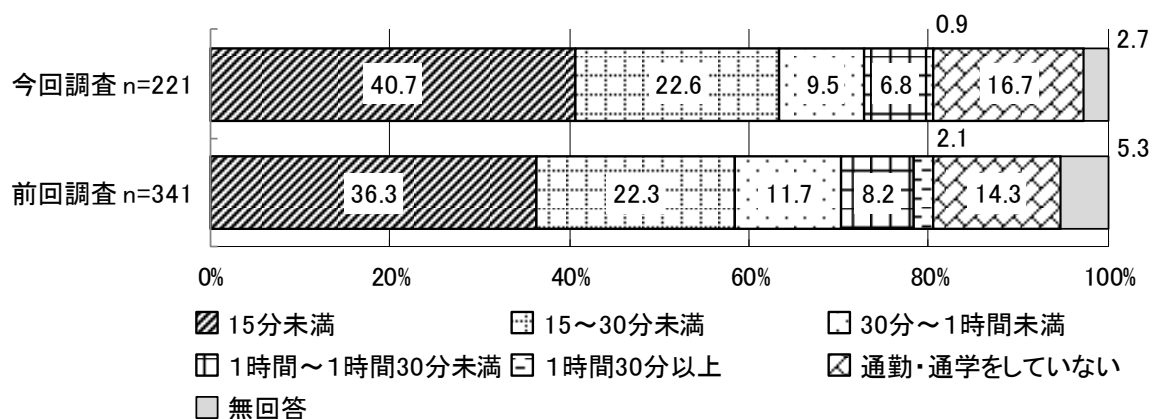


※その他：「育児中の母親がパートできるような企業を増やす」、「他地域や都会の人と交流したい」、「子供の人間性を育てるための映画・演劇・講演・ワークショップなど」、「子育て支援センターや児童館」等

④住みやすさについて

「あなたが、通勤・通学等で要する時間はどれくらいですか。（1つに○）」

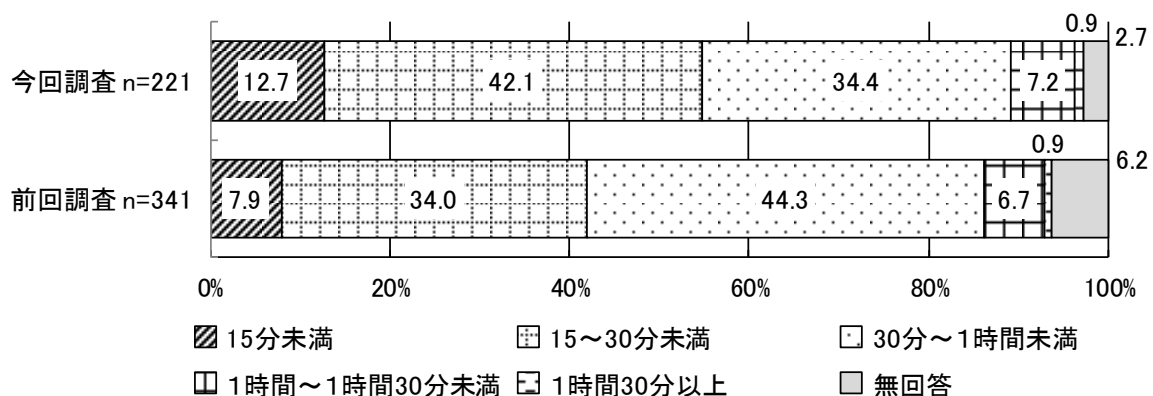
- 通勤・通学等で要する時間は、「15分未満」が40.7%と最も多く、次いで「15～30分未満」（22.6%）、「通勤・通学をしていない」（16.7%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「15分未満」がやや増加しています。



「あなたが、通勤・通学等で要する時間として許容できる時間はどれくらいですか。

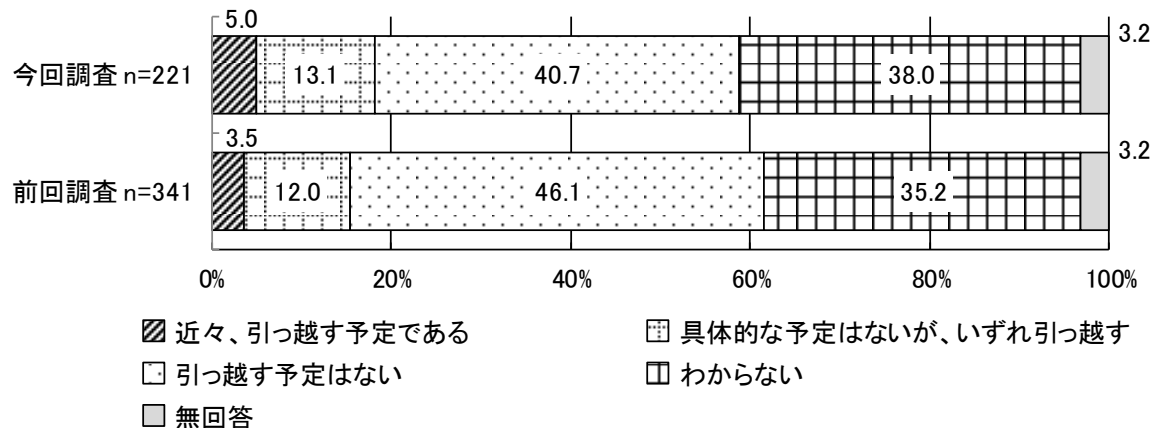
（1つに○）」

- 通勤・通学等で要する時間として許容できる時間は、「15～30分未満」が42.1%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」（34.4%）、「15分未満」（12.7%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「30分～1時間未満」が9.9%減少し、「15～30分未満」が8.1%増加しています。



「あなたは、近い将来、南牧村外へ引っ越すご予定はありますか。（1つに○）」

- 近い将来、村外へ引っ越す予定は、「引っ越す予定はない」が 40.7%と最も多く、次いで「わからない」（38.0%）、「具体的な予定はないが、いずれ引っ越す」（13.1%）、「近々、引っ越す予定である」（5.0%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「引っ越す予定はない」が 5.4%減少し、その他の項目がそれぞれ微増しています。
- 年齢×性別に見ると、25～29 歳_男性で「具体的な予定はないが、いずれ引っ越す」が 40.0%、40 歳以上_男性で「引っ越す予定はない」が 80.8%と高くなっています。



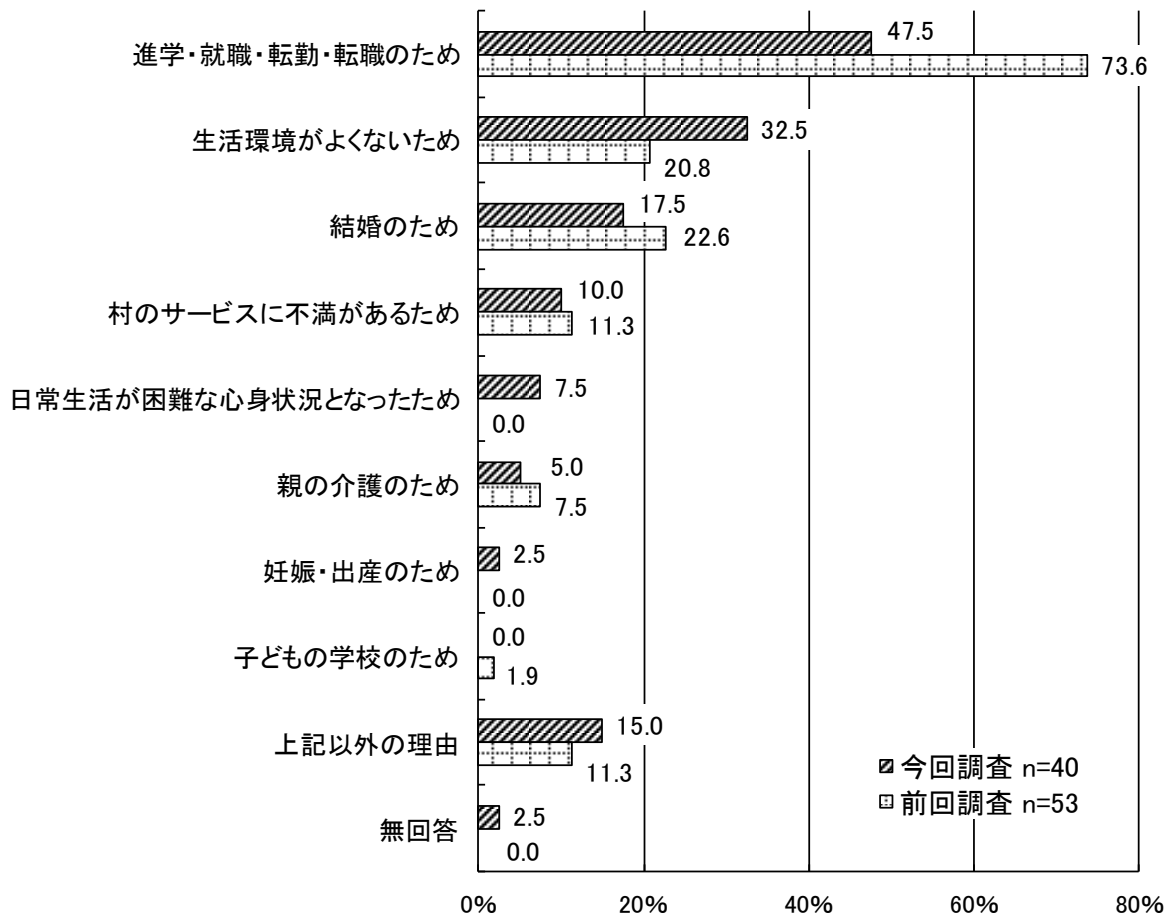
問12 あなたは、近い将来、南牧村外へ引っ越すご予定はありますか。（1つに○）

S/4	n数	近々、 引っ越す 予定である	具体的な 予定はないが、い ずれ引っ 越す	引っ越す 予定はない	わから ない	無回答
全体	221	11	29	90	84	7
	100.0%	5.0%	13.1%	40.7%	38.0%	3.2%
年齢× 性別	19歳_男性	7	0	1	0	6
	100.0%	0.0%	14.3%	0.0%	85.7%	0.0%
	19歳_女性	6	0	0	0	6
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20～24歳_男性	14	2	2	5	5
	100.0%	14.3%	14.3%	35.7%	35.7%	0.0%
	20～24歳_女性	19	2	4	4	6
	100.0%	10.5%	21.1%	21.1%	31.6%	15.8%
	25～29歳_男性	5	0	2	0	3
	100.0%	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%
	25～29歳_女性	14	2	4	4	4
	100.0%	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%
	30～34歳_男性	14	1	2	4	7
	100.0%	7.1%	14.3%	28.6%	50.0%	0.0%
	30～34歳_女性	29	2	5	12	10
	100.0%	6.9%	17.2%	41.4%	34.5%	0.0%
	35～40歳_男性	11	1	2	6	2
	100.0%	9.1%	18.2%	54.5%	18.2%	0.0%
	35～40歳_女性	22	0	2	10	9
	100.0%	0.0%	9.1%	45.5%	40.9%	4.5%
	40歳以上_男性	26	0	0	21	5
	100.0%	0.0%	0.0%	80.8%	19.2%	0.0%
	40歳以上_女性	51	1	5	21	21
	100.0%	2.0%	9.8%	41.2%	41.2%	5.9%

「【「近々、引っ越す予定である」、「具体的な予定はないが、いずれ引っ越す」を選択した方に】引っ越す理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）」

- 引っ越す理由は、「進学・就職・転勤・転職のため」が 47.5%と最も多く、次いで「生活環境がよくないため」（32.5%）、「結婚のため」（17.5%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「進学・就職・転勤・転職のため」が 26.1%減少し、生活環境がよくないため」が 11.7%増加しています。

※前回調査は中学生・高校生を対象に含んでいたため、「進学・就職・転勤・転職のため」は参考比較

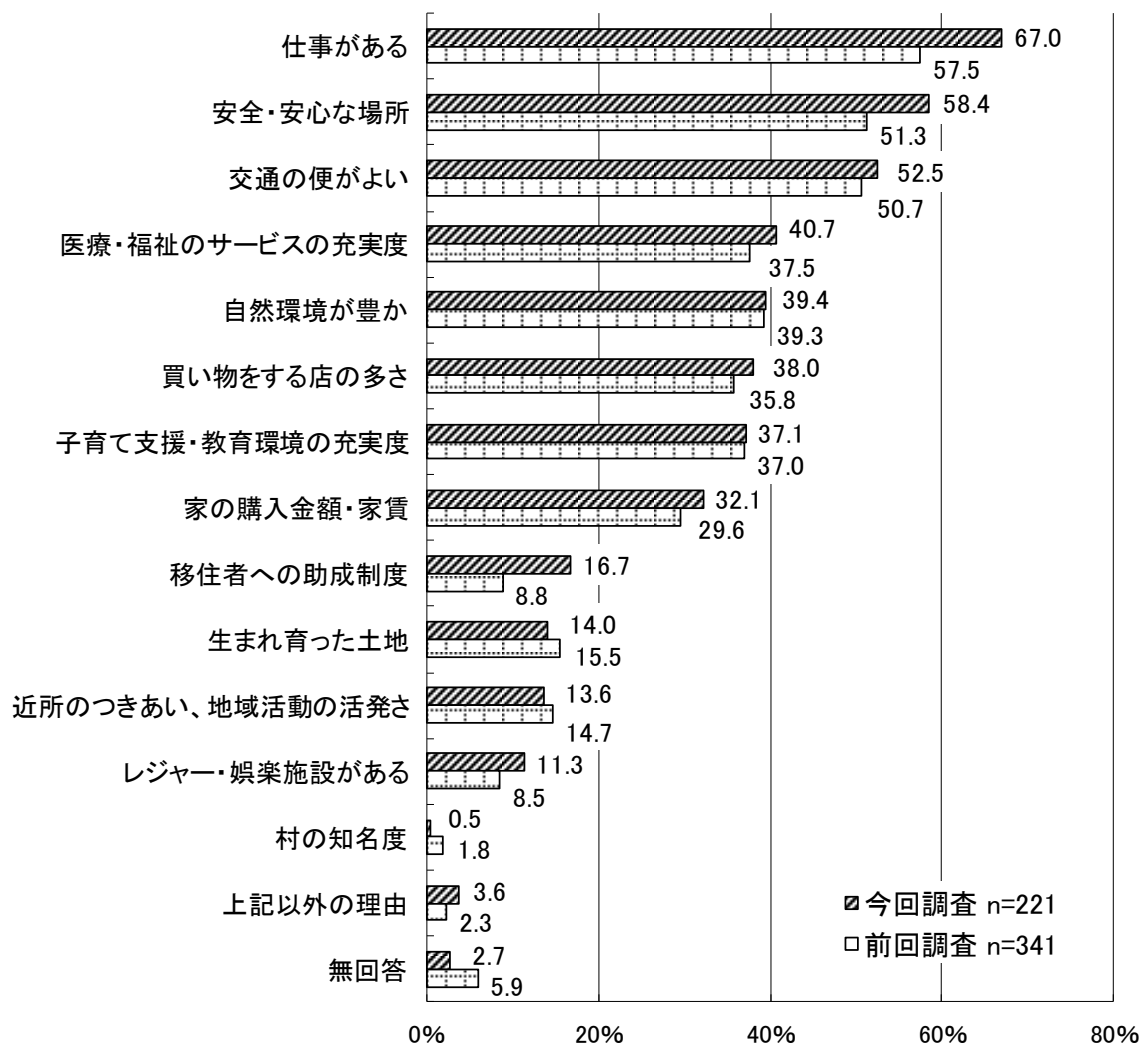


※上記以外の理由：「村外への外出など足の確保がむずかしい」、「農業がもういや」等

「あなたが、住む場所を検討する際に、重視する点は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 住む場所を検討する際に、重視する点は、「仕事がある」が 67.0%と最も多く、次いで「安全・安心な場所」(58.4%)、「交通の便が良い」(52.5%)、「医療・福祉のサービスの充実度」(40.7%)、「自然環境が豊か」(39.4%)と続いています。
- 前回調査と比べると、全体の傾向に大きな違いは見られませんが、「移住者への助成制度」が 7.9%増加しています。

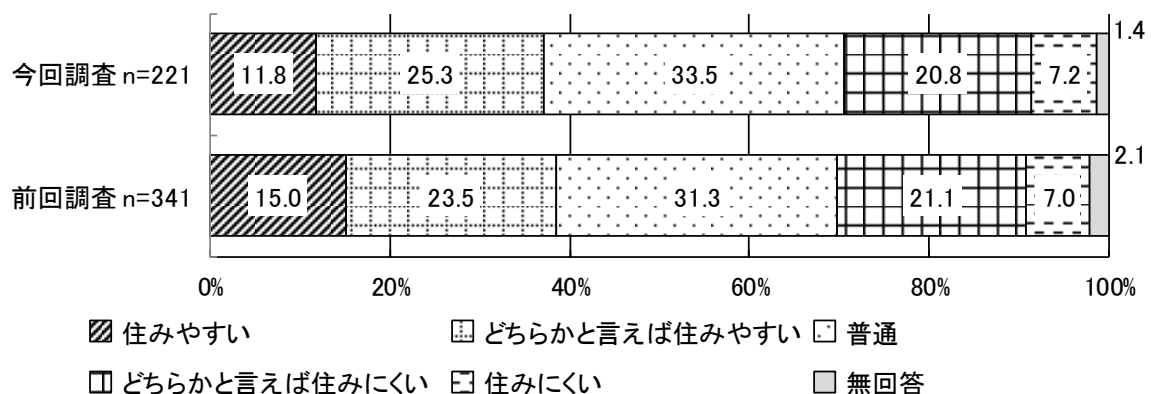


※上記以外の理由：「会社に近い」、「農業ができる環境」、「両親との近さ」等

「あなたは、南牧村を住みやすい村だと思いますか。（1つに○）」

- 本村の住みやすさについては、「普通」が 33.5%と最も多く、次いで「どちらかと言えば住みやすい」（25.3%）、「どちらかと言えば住みにくい」（20.8%）、「住みやすい」（11.8%）と続いています。
- 前回調査と比べると、『住みやすい』は今回調査が 37.1%、前回調査が 38.5%、『住みにくい』は今回調査が 28.0%、前回調査が 28.1%となっています。
- 年齢×性別に見ると、『住みやすい』は 19 歳_男性で 71.4%、30～34 歳_男性で 57.1%と高く、一方で『住みにくい』は 25～29 歳_男性で 60.0%、35～40 歳_男性で 45.5%と高くなっています。

※『住みやすい』は「住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」を、『住みにくい』は「住みにくい」と「どちらかと言えば住みにくい」をそれぞれ足し合わせたもの

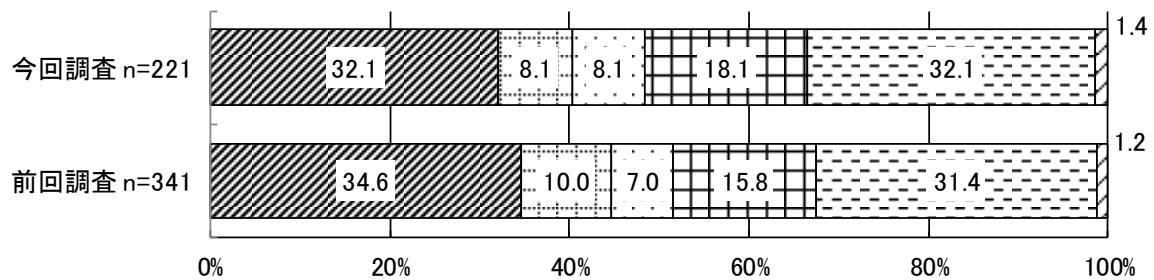


問14 あなたは、南牧村を住みやすい村だと思いますか。（1つに○）

S/5	n数	住みやすい	どちらか と言えば 住みやすい	普通	どちらか と言えば 住みにくい	住みにくい	無回答
全体	221	26	56	74	46	16	3
	100.0%	11.8%	25.3%	33.5%	20.8%	7.2%	1.4%
年齢× 性別	19歳 男性	7	3	2	1	1	0
		100.0%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%
	19歳 女性	6	2	0	2	2	0
		100.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	20～24歳 男性	14	1	4	6	1	2
		100.0%	7.1%	28.6%	42.9%	7.1%	14.3%
	20～24歳 女性	19	3	7	4	3	1
		100.0%	15.8%	36.8%	21.1%	15.8%	5.3%
	25～29歳 男性	5	0	2	0	1	2
		100.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%
	25～29歳 女性	14	2	2	5	4	1
		100.0%	14.3%	14.3%	35.7%	28.6%	7.1%
	30～34歳 男性	14	3	5	3	3	0
		100.0%	21.4%	35.7%	21.4%	21.4%	0.0%
	30～34歳 女性	29	2	13	6	6	2
		100.0%	6.9%	44.8%	20.7%	20.7%	6.9%
	35～40歳 男性	11	1	0	5	4	1
		100.0%	9.1%	0.0%	45.5%	36.4%	9.1%
	35～40歳 女性	22	1	4	13	3	1
		100.0%	4.5%	18.2%	59.1%	13.6%	4.5%
	40歳以上 男性	26	2	7	11	2	3
		100.0%	7.7%	26.9%	42.3%	7.7%	11.5%
	40歳以上 女性	51	6	9	17	15	3
		100.0%	11.8%	17.6%	33.3%	29.4%	5.9%

「あなたは、将来的にも南牧村に住み続けたいと思いますか。（1つに○）」

- 将来的な本村への定住意向は、「これからもずっと南牧村に住み続けたい」と「わからない」がともに 32.1%と最も多く、次いで「これからも南牧村に住み続けることになると思うが、できるなら南牧村を離れたい」（18.1%）と続いています。
- 前回調査と比べると、全体の傾向に大きな違いは見られません。
- 年齢×性別に見ると、40 歳以上_男性で「これからもずっと南牧村に住み続けたい」が 65.4%と最も高くなっています。



- これからずっと南牧村に住み続けたい
- 将来、進学・就職・転職等で南牧村を離れると思うが、いつかは戻って住みたい
- 将来、進学・就職等で南牧村を離れると思うが、そのまま戻るつもりはない
- 田 これからも南牧村に住み続けることになると思うが、できるなら南牧村を離れたい
- わからない
- 無回答

問15 あなたは、将来的にも南牧村に住み続けたいと思いますか。（1つに○）

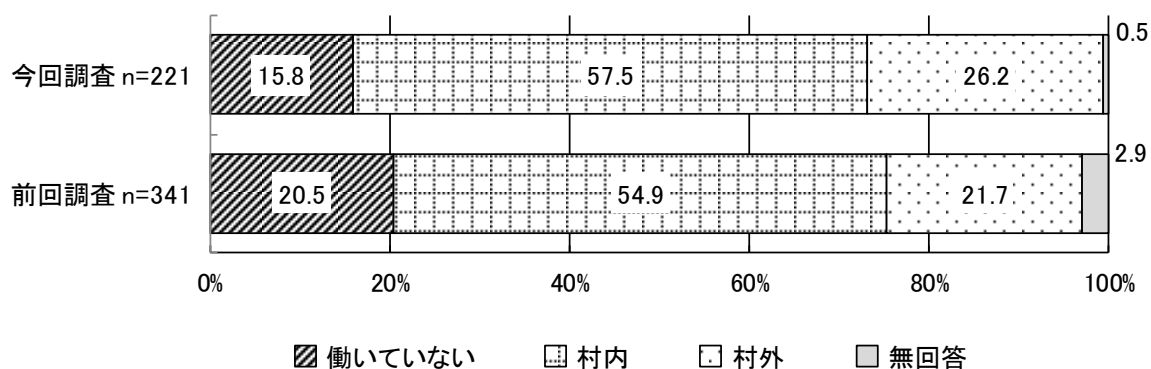
S/5	n数	これから もずっと 南牧村に 住み続け たい	将来、進 学・就 職・転 職等で 南牧村 を離れ ると思 うが、 いつ かは戻 って住 みたい	将来、進 学・就 職等で 南牧村 を離れ ると思 うが、 その まま戻 るつも りはない	これから も南牧村 に住み続 けること になる と思う が、 できる なら南 牧村を 離れたい	わから ない	無回答
全体	221	71	18	18	40	71	3
	100.0%	32.1%	8.1%	8.1%	18.1%	32.1%	1.4%
年齢×性別							
19歳 男性	7	2	2	1	0	2	0
	100.0%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%
19歳 女性	6	0	3	1	0	2	0
	100.0%	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
20～24歳 男性	14	5	1	2	1	5	0
	100.0%	35.7%	7.1%	14.3%	7.1%	35.7%	0.0%
20～24歳 女性	19	3	4	3	1	6	2
	100.0%	15.8%	21.1%	15.8%	5.3%	31.6%	10.5%
25～29歳 男性	5	0	0	1	2	2	0
	100.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%
25～29歳 女性	14	5	2	2	3	2	0
	100.0%	35.7%	14.3%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%
30～34歳 男性	14	5	1	1	0	7	0
	100.0%	35.7%	7.1%	7.1%	0.0%	50.0%	0.0%
30～34歳 女性	29	7	3	0	10	9	0
	100.0%	24.1%	10.3%	0.0%	34.5%	31.0%	0.0%
35～40歳 男性	11	2	0	1	4	4	0
	100.0%	18.2%	0.0%	9.1%	36.4%	36.4%	0.0%
35～40歳 女性	22	6	0	2	5	9	0
	100.0%	27.3%	0.0%	9.1%	22.7%	40.9%	0.0%
40歳以上 男性	26	17	0	0	3	6	0
	100.0%	65.4%	0.0%	0.0%	11.5%	23.1%	0.0%
40歳以上 女性	51	17	2	4	11	16	1
	100.0%	33.3%	3.9%	7.8%	21.6%	31.4%	2.0%

⑤働くことについて

「あなたは、現在、どこで働いていますか（パート・アルバイトなどを含む）。

（1つに○）」

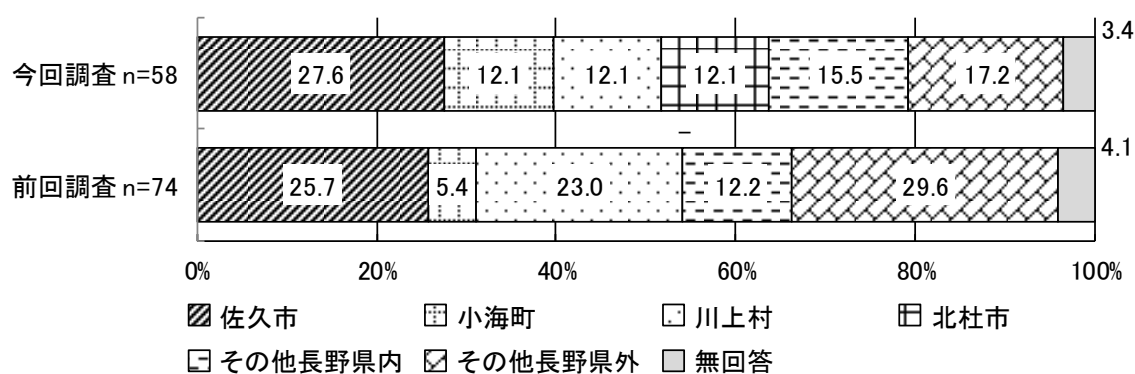
- 現在、働いている場所は、「村内」が 57.5%と最も多く、次いで「村外」（26.2%）、「働いていない」（15.8%）、「無回答」（0.5%）となっています。
- 前回調査と比べると、「村外」が 4.5%増加しています。



「【「村外」を選択した方に】どこで働いていますか。（あてはまるもの1つに○）」

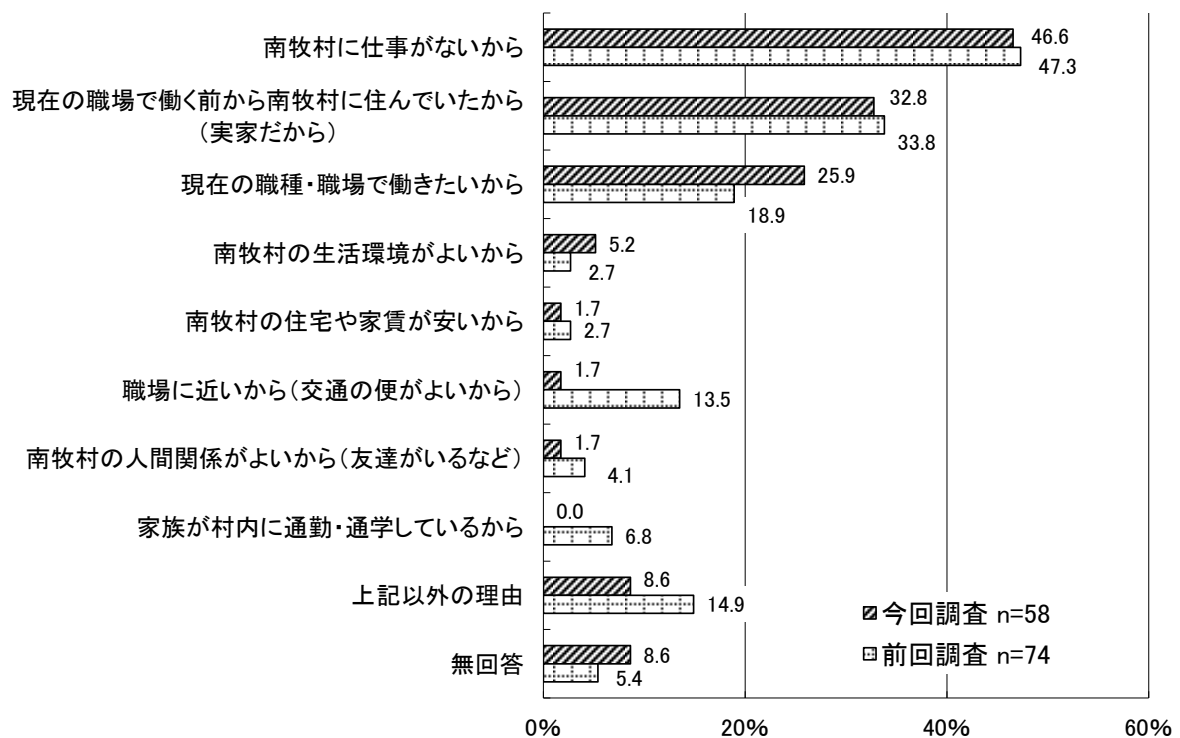
- 村外で働いている場所は、「佐久市」が 27.6%と最も多く、次いで「その他の長野県外」（17.2%）、「その他の長野県内」（15.5%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「川上村」が 10.9%減少しています。

※「北杜市」は前回調査では選択肢なし



「【「村外」を選択した方に】現在、南牧村に居住しながら村外で働いている理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）」

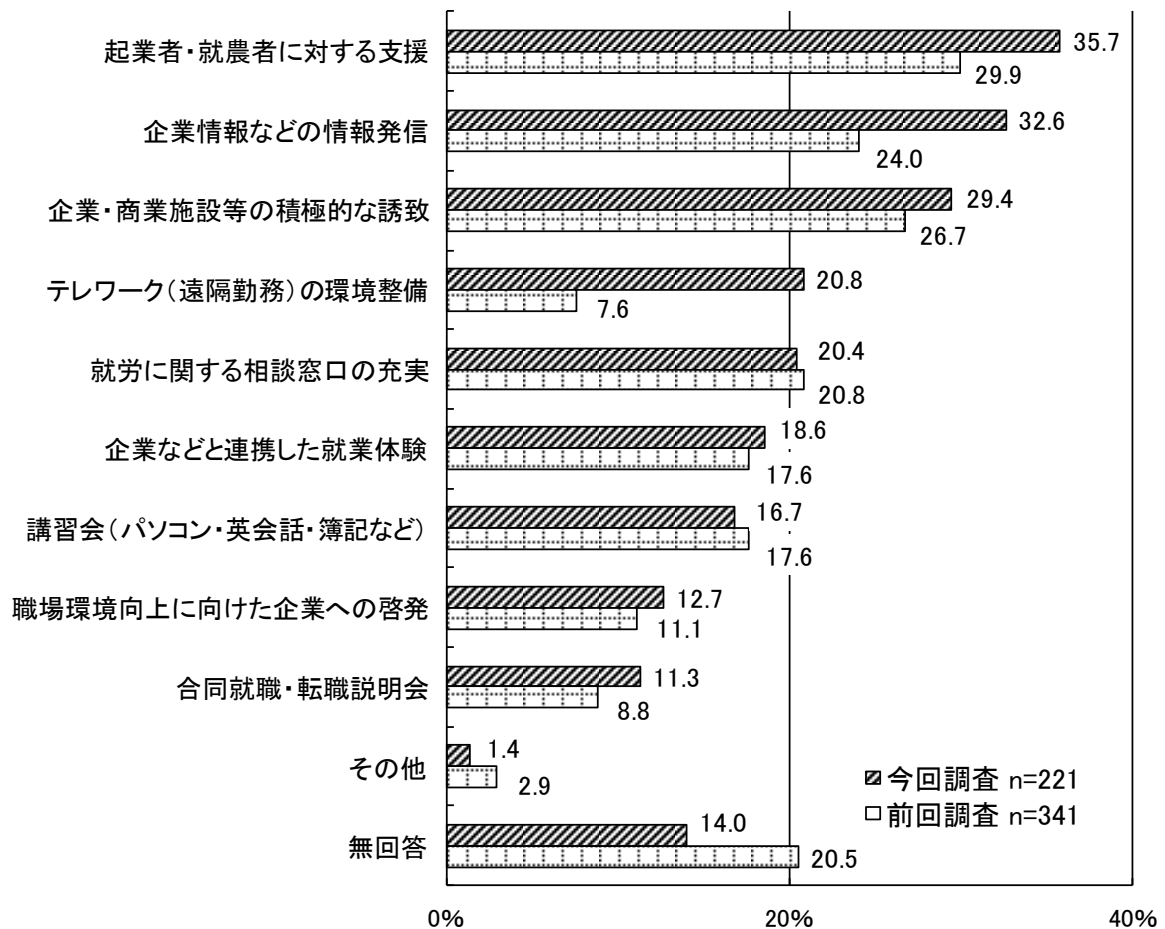
- 村外で働いている理由は、「南牧村に仕事がないから」が 46.6%と最も多く、次いで「現在の職場で働く前から南牧村に住んでいたから（実家だから）」（32.8%）、「現在の職種・職場で働きたいから」（25.9%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「現在の職種・職場で働きたいから」が 7.0%増加し、「職場に近いから（交通の便がよいから）」が 11.8%減少しています。



※上記以外の理由：「嫁いだから」、「移住したが会社は県外のため」等

「南牧村のよりよい労働環境を形成するために、次の行政サービスのうち、必要だと感じるものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）」

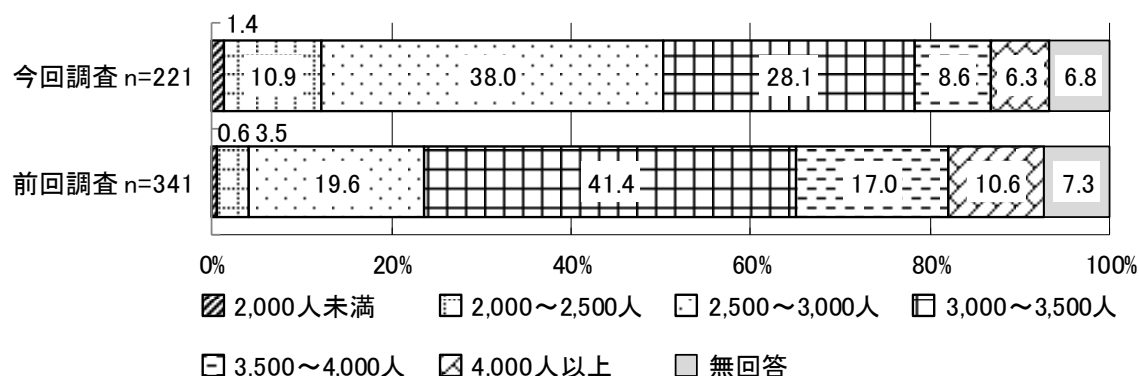
- 本村のよりよい労働環境を形成するために、必要だと感じる行政サービスは、「起業者・就農者に対する支援」が 35.7%と最も多く、次いで「企業情報などの情報発信」（32.6%）、「企業・商業施設等の積極的な誘致」（29.4%）、「テレワーク（遠隔勤務）の環境整備」（20.8%）と続いています。
- 前回調査と比べると、全体の傾向に大きな違いは見られませんが、「テレワーク（遠隔勤務）の環境整備」が 13.2%増加しています。



⑥人口減少社会におけるまちづくりについて

「南牧村の人口として、何人くらいがちょうどよいと思いますか。（1つに○）」

- 本村の望ましい人口規模は、「2,500～3,000 人」が 38.0%と最も多く、次いで「3,000～3,500 人」（28.1%）、「2,000～2,500 人」（10.9%）と続いています。
- 前回調査と比べると、「2,500～3,000 人」が 18.4%増加し、「3,000～3,500 人」が 13.3%減少しています。
- 年齢×性別に見ると、25～29 歳_女性と 30～34 歳_男女において「3,000～3,500 人」の占める割合が、それ以外の層では「2,500～3,000 人」の占める割合が高くなっています。



問22 あなたは、何人くらいが当村の人口としてちょうどよいと思いますか。（1つに○）

S/6	n数	2,000人未満	2,000～2,500人	2,500～3,000人	3,000～3,500人	3,500～4,000人	4,000人以上	無回答
全体	221	3	24	84	62	19	14	15
	100.0%	1.4%	10.9%	38.0%	28.1%	8.6%	6.3%	6.8%
年齢×性別	19歳_男性	7	0	1	2	2	0	0
		100.0%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
	19歳_女性	6	0	0	4	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%
	20～24歳_男性	14	0	4	6	2	1	0
		100.0%	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	7.1%	0.0%
	20～24歳_女性	19	0	2	8	7	0	1
		100.0%	0.0%	10.5%	42.1%	36.8%	0.0%	5.3%
	25～29歳_男性	5	1	0	3	0	0	1
		100.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	25～29歳_女性	14	0	0	4	8	2	0
		100.0%	0.0%	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%
	30～34歳_男性	14	1	3	4	6	0	0
		100.0%	7.1%	21.4%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%
	30～34歳_女性	29	0	1	11	12	3	1
		100.0%	0.0%	3.4%	37.9%	41.4%	10.3%	3.4%
	35～40歳_男性	11	0	1	4	2	0	3
		100.0%	0.0%	9.1%	36.4%	18.2%	0.0%	27.3%
	35～40歳_女性	22	0	2	10	5	2	1
		100.0%	0.0%	9.1%	45.5%	22.7%	9.1%	4.5%
	40歳以上_男性	26	1	4	10	6	0	4
		100.0%	3.8%	15.4%	38.5%	23.1%	0.0%	15.4%
	40歳以上_女性	51	0	6	17	11	7	3
		100.0%	0.0%	11.8%	33.3%	21.6%	13.7%	5.9%

3 人口の将来展望

将来の目標人口は、南牧村内の人口の現状分析や住民の希望、国及び長野県の長期ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略等を踏まえ、目標としながら、南牧村内の様々な政策・施策と人口対策、企業・団体・村民等による取組みによって、村民の結婚・出産・子育ての希望を実現し、人口移動の目標を達成することにより、南牧口の将来の姿を提示することを目的としています。

人口推計に関しては、国勢調査の総人口を基にした結果では、実際には当村に定住していない外国人農業実習生等が多く含まれていることから、住民基本台帳を基に日本人を中心とする定住人口を推計した本村独自の人口推計を採用し、将来の目標人口を以下のとおり設定します。なお、この目標人口は最低限確保する水準と位置づけ、移住・定住促進策を推進することにより、目標人口を上回る水準を目指すこととします。

【合計特殊出生率の目標】

：2025（令和 7）年以降、県民希望出生率 1.84 以上の維持

【社会移動の目標】

：2030（令和 12）年以降、移動均衡（社会増減ゼロ）



【将来の目標定住人口（最低限確保する水準）】
2060（令和 42）年の総人口：概ね 1,800 人

第2部

総合戦略

第1章 南牧村総合戦略策定にあたって

1 総合戦略策定の目的

本編第1部の南牧村人口ビジョンで示したとおり、当村の人口は減少を続けており、人口減少は今後、直接的・間接的に住民生活や地域経済、当村の財政に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づく、この「第二期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第二期南牧村総合戦略」とします。）は、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても、人々の交流がさらに活性化することにより、高い持続可能性を維持し、将来にわたって活力ある地域であり続けられるよう、人口ビジョンで掲げた将来展望を踏まえ、総合計画のうち特に必要な課題へ分野横断的に取り組む「戦略的」な行動計画として位置付け、今後4年間＜2021（令和3）年度～2024（令和6）年度＞の取組みについて、基本目標及び具体的な施策と客観的な成果指標をとりまとめたものです。人口減少に対し、これまで以上の危機感を持ち、問題意識を住民と広く共有しながら、「産官学金労言士」（産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア、士業等）が連携して戦略的な施策を総合的に推進していきます。

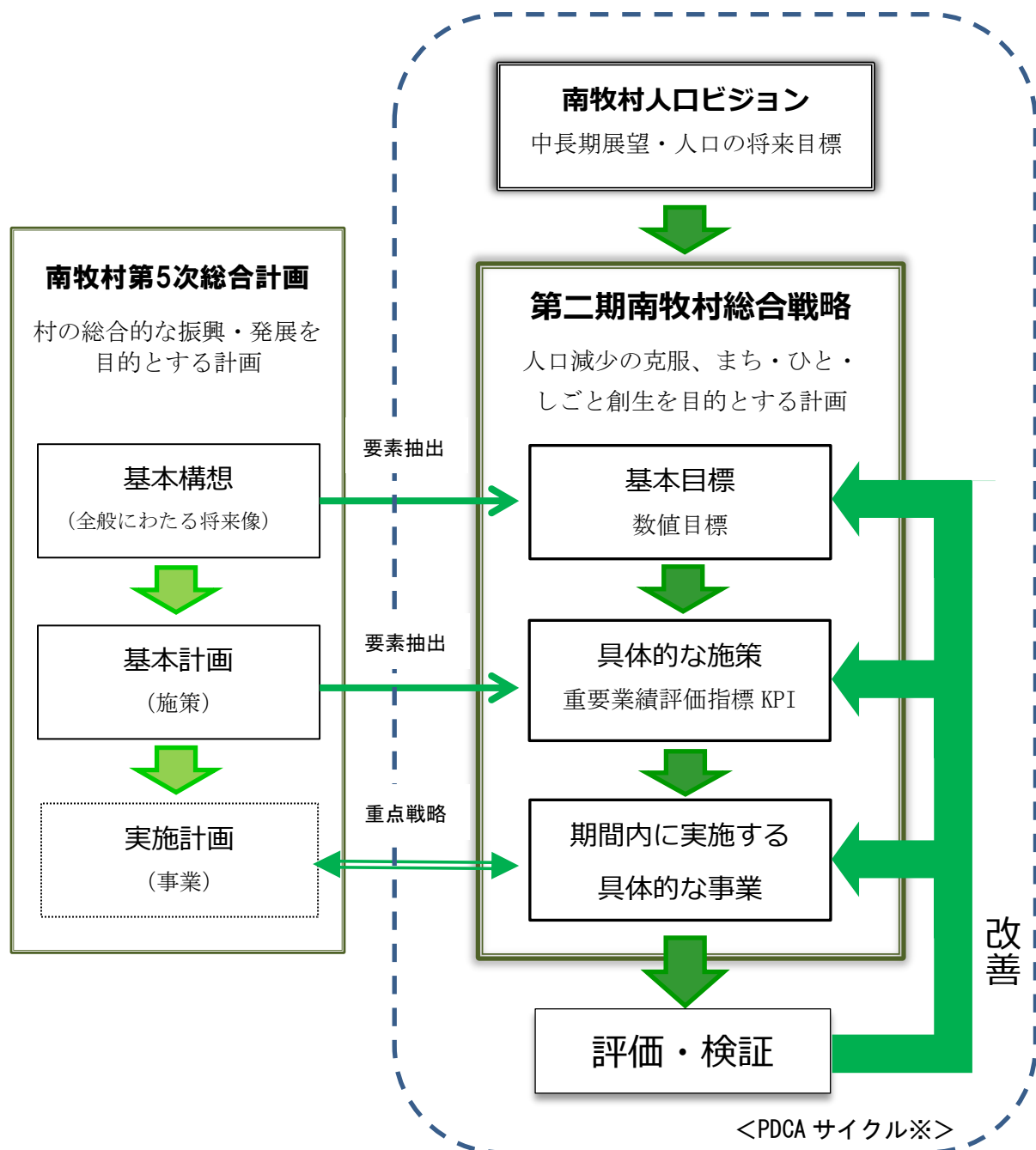
2 総合戦略の位置付け

第二期南牧村総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定に定める「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」として、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指していくための目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめるものです。

国が策定した「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則を踏まえ、長野県が策定している「しあわせ信州創造プラン2.0（長野県総合5か年計画）」や「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略～信州創生戦略～（改定版）」との整合性も図りながら広域的な連携により進めていきます。

3 南牧村第5次総合計画との関係

当村における最上位計画として、2014（平成26）年度から2023（令和5）年度までを計画期間とする「南牧村第5次総合計画」を策定しており、現在は後期基本計画に基づき各種の施策を推進しています。この総合計画は、南牧村の総合的な振興や発展を図ることを目的に、行政全般にわたっての理念と施策を定め、主要な取組みを計画したもので、人口減少や地域産業の活性化などの当村の多様な課題を克服するための施策を展開する点では共通しています。そのため、第二期南牧村総合戦略は、南牧村第5次総合計画後期基本計画における「まち・ひと・しごとの創生」に関係する分野の重点戦略・実施計画の一部と位置付け、「南牧村人口ビジョン」に掲げた将来展望の実現に向けた政策パッケージとして、南牧村の特性や実情にあった具体的な施策・事業を明らかにしています。



※ P D C Aサイクル：PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

4 総合戦略の計画期間

南牧村総合戦略は、南牧村人口ビジョンの長期展望に対する短期の目標・計画として、2021（令和3）年度から2024（令和6）年度までの4年間の計画期間とします。

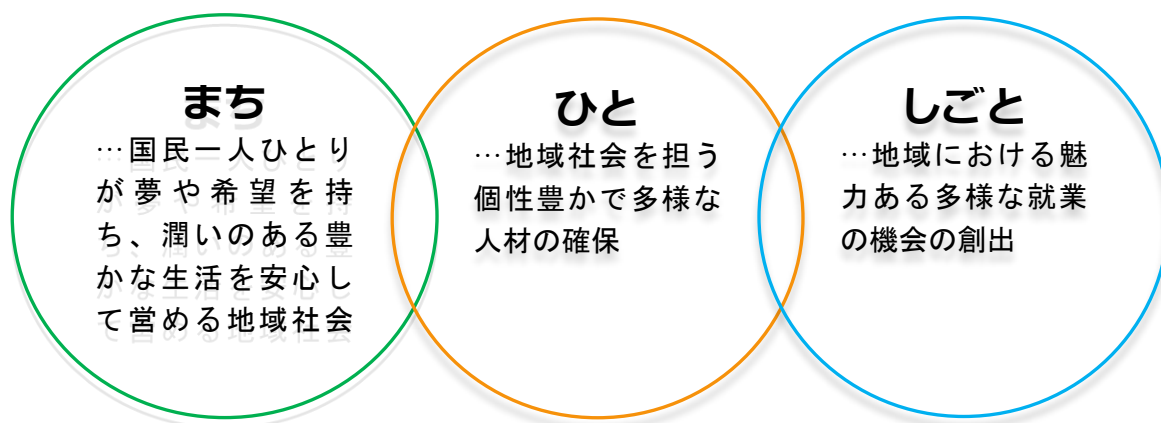
年度	2020	2024	2029	2034	2039	2044	2049	2054	2059
南牧村人口ビジョン					中間目標				最終目標
第二期南牧村総合戦略		最終目標							

第2章 総合戦略の基本的な考え方

1 まち・ひと・しごとの創生

まち・ひと・しごとの創生は、「ひと」が中心であり、長期的には本村で「ひと」をつくり、「ひと」が「しごと」や「まち」をつくっていくことを目指しています。

この総合戦略を進める上では、「しごと」の創生、「ひと」の創生、「まち」の創生を同時に、そして一体的に取り組んでいきます。



2 政策5原則の実現

国の総合戦略では、まち・ひと・しごとの創生に向けた施策については、府省庁・制度ごとの『縦割り』構造、地域特性を考慮しない『全国一律』の手法、効果検証を伴わない『バラマキ』、地域に浸透しない『表面的』な施策、『短期的』な成果を求める施策、とならないよう展開することが引き続き必要であるとされています。また、第2期における施策の方向性等を踏まえ、第1期に掲げた政策5原則を次のとおりに見直しています。

第二期南牧村総合戦略においても、国の政策5原則の趣旨を十分に踏まえつつ、本村の置かれている状況と今後の見通しを総合的に勘案し、施策を展開します。

■まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

(1) 自立性	地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。
(2) 将来性	施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。
(3) 地域性	地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。
(4) 総合性	施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。
(5) 結果重視	施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

3 南牧村の基本理念と基本方針

「南牧村第5次総合計画」では、当村のむらづくりを進めていくうえで、目指すべき将来像（キャッチフレーズ）として、「安全・安心 野菜村 自然いっぱい 野菜も大盛り 星空が見守る 南牧」を設定しています。

将来像に含まれるキーワードには、以下のような意味が込められています。

安全・安心 …すべての村民が安全・安心して暮らし、村を訪れる人々が安全・安心に過ごすことができ、安全・安心で美味しい農畜産物を日本の中心から全国に届けるむらを目指します。

自然いっぱい …雄大なハケ岳連峰の裾野に広がるさわやかな高原の村として、恵まれた自然を守り、活かしながら、四季を通じてその魅力を存分に感じ、満喫できるむらを目指します。

野菜も大盛り …主要産業である高原野菜をはじめ、本村から生み出される魅力をお腹一杯味わっていただき、また訪れたいと思えるような、おもてなしの心と人間味あふれるむらを目指します。

星空が見守る …地形や気候等、星空を観測するための好条件がそろっている本村は、日本で有数の星がきれいに見える地域です。星空に見守られ、活用し、美しい星のようにきらりと光るむらを目指します。

また、少子高齢化の急速な進行や厳しい社会経済状況、地域主権の推進という時代背景の中、南牧村の実情に応じた特色ある持続可能なむらづくりを推進するため、基本構想では、以下の4つの基本理念（基本的な考え方）及び基本政策を掲げています。



理念1

“南牧村らしさ”を伸ばす

美しい景観や星空、冷涼な気候、全国有数の農産物、心温かい村民気質など、南牧村が有する地域資源のよさを再認識しつつ、最大限活用しながら、常に「南牧らしさ」を追求し、伸ばしていくむらづくりを推進します。



理念2

“一人ひとりの笑顔”をつくる

子どもや若者、働く人々、高齢者をはじめ、すべての村民が自分らしく暮らし、村を訪れる人々が充実した時間を過ごすことができる、笑顔あふれるむらづくりを推進します。



理念3

“安全・安心”を守る

本村のすべての人の安全が守られ、安心して過ごすことができるよう、多様な主体が連携・協力しながら、地域ぐるみで取り組むむらづくりを推進します。



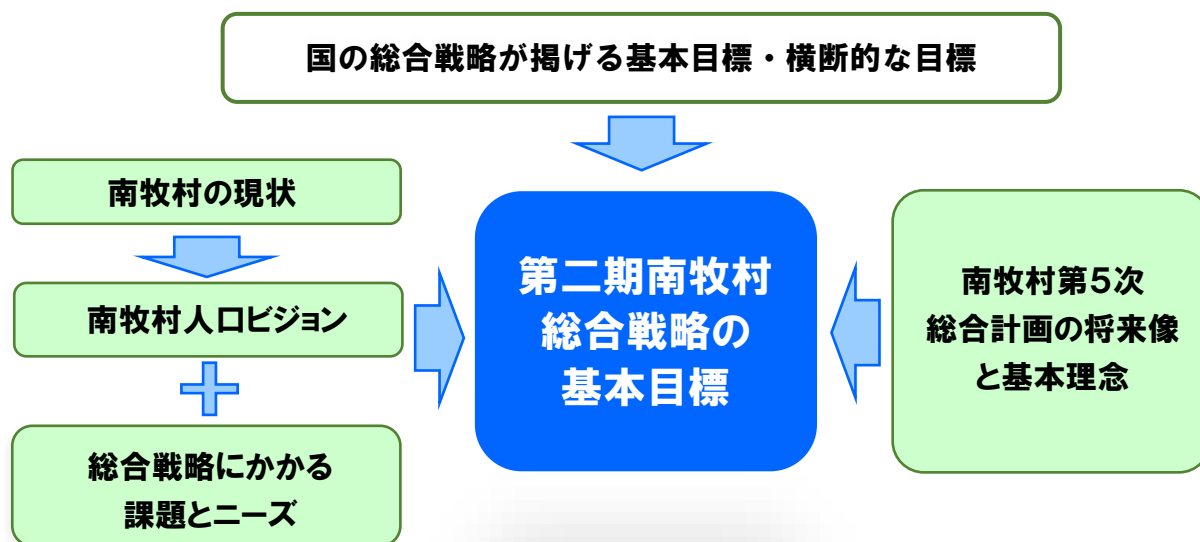
理念4

“持続可能なむら”をつくる

将来にわたって活力ある村であり続けることができるよう、村民と行政による協働のむらづくりを推進するとともに、若者が夢をもって暮らし、次代を担う子どもたちが健やかに育つ、持続可能なむらづくりを推進します。

4 基本目標の設定

国が示す基本目標に基づき、南牧村第5次総合計画における本村の将来像と基本理念、現状の課題・ニーズ等を踏まえ、第二期南牧村総合戦略における基本目標を4つ設定します。基本目標にはそれぞれ、実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定するものとします。



【基本目標】

■ 基本目標1 <「しごと」の創生>

稼ぐ南牧村をつくとともに、安心して働けるようにします

■ 基本目標2 <「ひと」の創生>

他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります

■ 基本目標3 <「ひと」の創生>

若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます

■ 基本目標4 <「まち」の創生>

ひとが集う、安全で安心して暮らせる魅力的な南牧村をつくります

この4つの基本目標の分野ごとに、南牧村第5次総合計画の基本政策・主要施策等から講ずべき施策の基本的な方向と具体的な施策を盛り込み、具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定します。また、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を外部有識者等の参画により検証し、必要に応じて第二期南牧村総合戦略の改訂を行うことにより、PDCAサイクルを確立していきます。

第3章 基本目標ごとの施策の展開

基本目標1 移ぐ南牧村をつくとともに、安心して働けるようにします

【基本的な方向】

本村は、村に住み続けたいと考える若い世代が職住一体・近接で働けるよう、また、いったん村外で暮らした人が村に安心してUターンできるよう、さらに高齢期までいきいきと働けるよう、地域固有の資源を活かして仕事を創り出す村づくりを目指します。

魅力的な仕事づくりにあたっては、耕作放棄地の活用や新規就農希望者への支援、農林畜産業における作業の効率化を図るとともに、第1次産業から第3次産業までを巻き込んだグリーンツーリズムの推進による観光振興を主要テーマとして、農林業体験などの体験型交流観光を推進します。

また、本村の基盤産業である農林畜産業等では、引き続き、事業者と連携しながら雇用の維持と特産品のブランド化に取り組みます。商業・サービス業については、高齢化の進行に伴い車を運転できない高齢者などの買い物支援も考慮し、宅配機能を強化した小売業や公的支援による商業振興を図るほか、貴重な観光資源を活用した観光振興と一体的に、小規模なビジネスを行う企（起）業誘致の取組みの充実を図ります。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値(令和6年度)
① 南牧村を訪れる観光客数 ＜出典：長野県観光地利用者統計調査＞	29.5 万人／年 (平成 30 年度)	20 万人／年以上 (R2 コロナ影響 13.7 万人)
② 村内に居住しながら村外で働いている理由として「南牧村に仕事がないから」と回答する割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	46.6% (令和元年度)	40.0%以下

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

1-1 農林畜産業の振興

(1) 農林畜産業経営基盤の整備

作業の効率化や負担軽減、経営の近代化・安定化を促進し、生産性の高い農林畜産業経営を実現するための基盤整備を推進します

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 農地の集積促進と耕作放棄地対策の推進	耕作放棄地の利活用面積 ＜出典：産業建設課調べ＞	0.5ha 整備 (5 か年累計)

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
② 農業・畜産経営支援の充実	農業用廃プラスチック 回収処理費用 ＜出典：産業建設課調べ＞	費用の 1/3 維持
③ 担い手の確保に向けた支援 の充実	認定農業者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	100 人
④ 森林の保全・整備	所有者不明林解消に向けた 取組みの実施 ＜出典：産業建設課調べ＞	実施
⑤ 森林の多面的機能の活用	中学生林業体験実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年 1 回
	森林整備事業（森林教育・ 観光地化）の実施か所数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1 か所 （5 か年累計）
⑥ 害虫・有害獣、家畜伝染病対策 の推進	有害鳥獣駆除頭数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年間 800 頭
⑦ AI（人工知能）、IoT（モノ のインターネット）等の活用 に向けた研究、導入支援	牛舎及び圃場設置 カメラ等への補助 ＜出典：産業建設課調べ＞	補助金制度の創設

（２）農林畜産物の高付加価値化と販路拡大

ブランド化の推進や加工販売、安全・安心な農畜産物づくりへの取組など農産物の高付加価値化を推進するとともに、効果的な情報発信等による販路拡大を促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 農産物・畜産物のブランド化 の推進	販売促進活動の実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	年 5 回
② グリーンツーリズムの推進	農林畜産業の体験事業 への参加者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	30 人 （5 か年累計）
③ 直売所の充実	直売所の売上額 ＜出典：産業建設課調べ＞	2 億円

(3) 就農支援の充実

担い手の確保と農業の活性化に向け、村内で新たに農業をはじめたいと希望する人や法人に対する支援の充実を図り、新規就農を促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 就農に関する情報提供・相談支援	相談件数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3件／年
② 農業法人設立・参入支援	新規設立・参入件数 ＜出典：産業建設課調べ＞	5件 (5 か年累計)

1-2 観光業・商工業の振興

(1) 特色を活かした観光業・商工業の振興農業を通じた交流の促進

農・商の連携を促進しながら、豊かな自然や美しい風景、高原野菜や酪農などの地域産業を活かした観光業・商工業の振興を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 観光資源（ハヶ岳・飯盛山等）の整備	整備実施か所数 ＜出典：産業建設課調べ＞	4か所 (5 か年累計)
② 新たな観光資源の発掘	新規観光資源化数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3件 (5 か年累計)
③ 登山客の誘客数	南牧三峰（赤岳・硫黄岳・横岳）における登山者数 ＜出典：産業建設課調べ＞	10,000 人

(2) 観光交流拠点・イベントの充実と情報発信

関係機関との連携強化を図りつつ、地域の特色を活かした新たな観光交流拠点やイベントの実施を推進し、より多くの観光客誘客と交流促進を図ります。また、村の魅力を効果的に発信し、村のイメージ向上を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 新たな観光交流拠点の整備	拠点設置数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1 か所 (5 か年累計)
② 特色あるイベントの充実	イベント開催数 ＜出典：産業建設課調べ＞	4回／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
④マスメディア・SNSを活用した情報発信	SNS記事投稿回数 ＜出典：総務課調べ＞	50 回以上／年
⑤村のイメージ向上のための取組の推進	マスコットキャラクター（着ぐるみ）の活動 ＜出典：産業建設課調べ＞	4 回／年

（３）商工業経営支援の充実

新たなチャレンジや地域課題に積極的に取り組む事業者への支援の充実を図るとともに、経営指導等による経営基盤の強化を支援します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 新たなチャレンジを支援するための取組の推進	村内事業者新規事業支援数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3 社・団体 (5か年累計)
② 地域課題の解決に向けた取組に対する支援の充実	食料品販売店の設置数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1 か所
③ 経営の安定化に向けた支援の充実	経営改善指導や融資の各制度利用数 ＜出典：産業建設課調べ＞	10 件／年

1-3 雇用・就労支援

（１）雇用の場の創出・確保

立地優位性の確立を図りつつ、企業誘致を促進することで、産業の活性化と雇用の創出を図ります。また、村の特性を活かした起業に対する支援の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 企業誘致の推進	誘致数 ＜出典：総務課調べ＞	1 社 (5か年累計)
② 就農・起業支援の充実	村内での新規就農及び新規起業家数 ＜出典：産業建設課調べ＞	3 人 (5か年累計)

（２）多様な働き方の創出

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① サテライトオフィスの誘致	誘致数 ＜出典：総務課調べ＞	1 社 (5か年累計)
② 村外通勤に対する支援	負担軽減策の導入 ＜出典：総務課調べ＞	令和6年度までに導入

基本目標2 他の地域とつながり、南牧村への新しい人の流れをつくります

【基本的な方向】

本村は、村に住み続けたいと考える人が安心して暮らし、また、いったん村外で暮らした人が村に安心してUターンすることができるよう、魅力ある居住環境や公園の整備を進めるほか、村内の空き家や未利用地の調査・把握を進め、村営住宅としての整備や転入・転居希望者への情報提供の仕組みを構築します。

また、住民相互の助け合いと連帯感の重要性を踏まえて、従来の村民同士のつながりと慣習を生かしつつ、村に住み続けたい人、村に戻って暮らしたい人、出会いを求めたい人にとって、快適なコミュニティづくりを目指します。

さらに、現在の地域間交流活動を継続、充実するとともに、外国人の受け入れ等を通じた民泊の促進やホームステイなどの新しい交流活動に取り組み、本村らしい山村のくらしを体験する人を増やしていきます。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値(令和6年度)
① 日本人の社会増減数 (出典：住民基本台帳)	▲73人 (平成27年～31年累計)	▲30人 (令和2年～6年累計)
② 「友達や近所の人とのふれあい」に関する村の環境の満足度 (出典：地方創生住民アンケート調査)	33.0%※ (令和元年度)	40%以上

※『満足』は、「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

2-1 移住・交流の促進

(1) 多様な交流活動の促進

他の地域の団体や観光客との交流など、多様な交流とふれあいを通じて相互の理解を深め、自らの個性を再発見する機会の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 自治体間交流の推進	交流市町村数 ＜出典：総務課調べ＞	5市区町村
② 観光等を通じた交流人口の拡大	外国人観光客数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1,589人／年 ※新型コロナウイルス発生前並み
③ 世代間交流の促進	世代間交流を目的とした 行事の実施回数 ＜出典：教育委員会 ・保育園調べ＞	5回／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
④ 多文化共生社会の推進	ラ・トリニダット町との 交流回数 ＜出典：総務課・産業建設課 調べ＞	年 1 回
⑤ 地域おこし協力隊の受け入れ	地域おこし協力隊員 受け入れ数 ＜出典：総務課調べ＞	1 人

(2) コミュニティ活動の推進

地域活動が活発に行われるための支援の充実を図るとともに、より多くの村民が地域活動に参加できるための情報提供及び機会の創出を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 地域活動団体（公民館分館・ 老人クラブ等）の活動支援 ※公民館本館活動及び団体所属者 が娯楽を享受するものは除く。	補助金支給団体数 ＜出典：教育委員会・社会福 祉協議会調べ＞	7 団体以上／年
② コミュニティ活動の拠点施設 の改修整備	改修整備工事数 ＜出典：教育委員会調べ＞	5 か所 (5 か年累計)
③ 学校施設・社会教育施設の 利用促進	利用者数（村民以外も含む） ＜出典：教育委員会調べ＞	0.4 (回数／合計人数／月数)

(3) 住宅・公園等の整備・充実

若者の定住促進のための住宅・宅地の整備や老朽化した村営住宅の計画的な改修を推進するとともに、公園・広場の整備と適正管理を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 公営住宅の計画的な整備	村営住宅の新規建設棟数 ＜出典：産業建設課調べ＞	1 棟
② 空き家対策の推進	空き家の実態調査件数 ＜出典：総務課調べ＞	10 件 (5 か年累計)
③ 公園・広場の整備と適正管理 の推進	村民による自主的な 維持管理体制の構築 ＜出典：産業建設課調べ＞	令和6年度までに 構築

2-2 協働の推進

(1) 情報発信・共有の推進

多様な手段により行政情報を積極的に公開・発信するとともに、村民の意見を聴く機会の充実を図り、地域における課題を村全体で共有していきます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 広報紙・ホームページ等による情報発信の充実	議会内容の迅速な伝達 ＜出典：総務課調べ＞	本会議から3日以内に YKTV で放送
	広報誌で村政特集記事の掲載 ＜出典：教育委員会調べ＞	年1回
② 議会や各種審議会・委員会の公開及び傍聴の促進	議会・各種委員会、審議会などの公開割合 ＜出典：総務課議会事務局調べ＞	100%
③ 中学生議会の開催	開催回数 ＜出典：総務課議会事務局調べ＞	1回／年
④ 村民意向の把握と参画機会の充実	行政計画策定時の住民アンケート調査実施率 ＜出典：地方創生住民アンケート＞	100%

基本目標3 若い世代の定住を促進し、結婚・出産・子育ての希望をかなえます

【基本的な方向】

本村は、妊娠・出産期の支援、保育サービスをはじめとした子ども・子育て支援、学校教育について切れ目の無い支援を実施しています。また、子どもたちに農林業体験やボランティア体験、サマーキャンプ、中学生の海外派遣など、充実した学習・体験活動の機会を提供しており、今後もこれらの取組みの継続と充実に努めます。一方で、本村では少子化により1校あたりの人数が減少してきており、子どもの健やかな成長にとって、また、地域の特色ある教育を推進するにあたっての適正な規模や設置の在り方について、引き続き検討を進めていく必要があります。

また、出生や進入学時の節目、通学等にかかる費用など、子育て家庭に対する経済的な支援制度を継続して負担軽減に努めるとともに、男女の多様な働き方の普及を通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値(令和6年度)
① 合計特殊出生率 ＜出典：住民課調べ＞	1.56 (平成30年度)	1.84
② 「子育て支援・教育環境の充実」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	28.5% ※1 (令和元年度)	35%以上
③ 「南牧村に住みたい」との回答割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	40.2% ※2 (令和元年度)	45%以上

※1「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの。

※2「これからもずっと南牧村に住みたい」と「将来、進学・就職・転職等で南牧村を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」の回答を足し合わせたもの。

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

3-1 子ども・子育て支援の充実

(1) きめ細かな保健サービスの充実

妊娠期から乳幼児期において、状況に応じた適切な指導や情報提供に努めます。また、発達の遅れや心配がある子どもについて、関係機関と連携を図りながら、早期療育につなげるための支援を行います。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 母子保健の推進 ＜出典：住民課調べ＞	不妊治療・不育治療支援継続	全員に支給
	新生児訪問実施率 (生後3か月以内に全戸訪問)	100%/年

（２）子育て支援の充実

子どもたちが心身ともに健やかに成長し、安心して子育てすることができるよう、地域全体で子育て・子育てを支えるむらづくりを進めます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 仕事と子育ての両立支援の充実	保育所・放課後児童クラブの待機児童数 ＜出典：住民課調べ＞	0人維持
② 子育てにかかる経済的支援の充実	出産祝金支給継続 ＜出典：住民課調べ＞	全員に支給
③ 子育ての孤立化防止と育児不安の解消	幼児の親同士の交流の場（コアラの広場）の開催回数 ＜出典：住民課調べ＞	1回／月 （開催継続）

3-2 学校教育の充実

（１）社会を生き抜く力の養成

確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育み、一人ひとりの個性・能力を伸ばす教育を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 豊かな人間性の育成	村内小中学校の交流学習の実施回数 ＜出典：教育委員会調べ＞	4回／年 （小中学校併せて）
② 個性を伸ばすきめ細かな教育の推進	小中学校におけるタブレット端末の普及率 ＜出典：教育委員会調べ＞	100%
③ 子どもの健康づくりと体力の向上	冬期の運動不足解消事業の実施回数（体育の授業は除く） ＜出典：教育委員会調べ＞	1回／年（各校）

（２）学校教育環境の充実

児童生徒が安心して学ぶことができる質の高い教育環境の整備・充実を計画的に推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 相談体制の強化	SC（スクール・カウンセラー）やSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）の各学校への配置 ＜出典：教育委員会調べ＞	配置継続

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
② 学校施設・設備の整備・充実	学校施設・設備の大規模修繕 及び改修箇所 ＜出典：教育委員会調べ＞	5箇所 (5 か年累計)
	校内ネットワーク環境施設 の整備 ＜出典：教育委員会調べ＞	令和6年度までに 村内小中学校に設置
③ 南牧村にふさわしい小中一貫教育の推進	小中一貫教育の導入 ＜出典：教育委員会調べ＞	令和6年度までに 建設地の方向性決定

(3) 家庭・地域・学校の連携強化

児童生徒の健やかな成長に向け、家庭とのさらなる連携・協働を図るとともに、地域ぐるみで進める開かれた学校運営を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 地域との連携強化	村内にある研究施設による 授業回数 ＜出典：教育委員会調べ＞	1 回／年
② 地域との協働による学校運営 の推進	信州型コミュニティスクールの 講師数 ＜出典：教育委員会調べ＞	30 人 (各校 10 人)

(4) 特色ある教育・保育の推進

時代の変化に対応しつつ、豊かな自然や地域の産業、さらには村の規模など、村の特色や強みを活かした一貫性のある教育を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
国際化・情報化に対応した教育 の推進	中学校卒業までの 英検 4 級取得率 ＜出典：教育委員会調べ＞	60%以上／年 (中学 3 年生徒)
	中学校卒業までの 英検 3 級以上の取得率 ＜出典：教育委員会調べ＞	30%以上／年 (中学 3 年生徒)

3-3 仕事と生活の調和

(1) 男女共同参画の促進

男女がそれぞれの能力と個性を十分に発揮でき、互いに尊重し合い、責任を分かちあうとともに、家庭や社会のあらゆる分野でともに参画できるむらづくりを進めます。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 男女共同参画意識の啓発、男女共同参画に関する各種制度の周知徹底	女性職員を雇用している 村内事業所割合 ＜出典：地方創生住民アンケート＞	95%以上
	村内事業所における 育児休暇制度整備率 ＜出典：地方創生住民アンケート＞	60%以上
② 政策決定過程における女性参画の推進	村議会・教育委員会・農業委員会・民生児童委員協議会・公民館運営協議委員会における女性委員の参画割合 ＜出典：総務課・住民課・産業建設課・教育委員会調べ＞	100%

基本目標4 ひとが集う、安全で安心に暮らせる魅力的な南牧村をつくります

【基本的な方向】

本村は、村民が安全、安心に暮らせるよう、様々な対策に取り組んでいます。

防災面では、防災・消防施設の整備・充実を図るとともに、人口減少と少子高齢化に伴う消防団員の高齢化を踏まえ、自主防災組織の充実や広域連携の推進など、将来に向けた体制づくりに努めます。

公共交通については、観光客の利便のほか、子どもや高齢者をはじめとした住民の日常生活の利便に直結するものとして、J R小海線や福祉バス、野辺山駅周辺観光バスの運行の維持管理に努めるとともに、生活道路を運行する巡回バスの充実やデマンド交通などの新交通システムを検討します。

また、本村の財産である豊かな自然景観を保全しながら、自然環境を有効に活用・創造していくことも本村の重要な課題の一つとなっています。

村民がいつまでも元気でいきいきと暮らせるよう、平均寿命・健康寿命の延伸に向けて医療・保健・福祉の充実を図りながら、村外も含めた多様な地域・世代の人々が本村の良さを発見・再認識し、愛着や誇りを持ち、魅力を感じて生活することのできる地域づくりを推進していきます。

【数値目標】

指 標	実績値	目標値(令和6年度)
① 「日常の買い物等の便利さ」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	7.7%※ (令和元年度)	15%以上
② 「村の景観や周辺の景色」に関する村の環境の満足度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	73.8% (令和元年度)	75%以上
③ 「南牧村は住みやすい村だと思う」との回答割合 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	37.1% (令和元年度)	50%以上

※「満足」と「まあ満足」の回答を足し合わせたもの

【具体的な施策・事業と重要業績評価指標（KPI）】

4-1 安全対策の充実

（１）防災・消防・救急体制の強化

住民の生命・財産を守るために、消防救急体制と設備の整備を図るとともに、災害に強いむらづくりに向けた防災体制の強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 防災・消防施設の整備・充実	ICT（情報通信技術）を活用した情報配信・安否確認システムの導入 ＜出典：総務課調べ＞	導入済み
② 広域連携の推進	民間企業との相互応援 協定締結数 ＜出典：総務課調べ＞	3 件 (5 か年累計)
③ 消防団・自主防災組織の充実 と活動の推進	消防団員数 ＜出典：総務課調べ＞	151 人の定数維持

（２）防犯・交通安全対策の充実

自分たちの地域は自分たちで守る犯罪のない村を目指し、地域ぐるみの防犯体制を強化します。また、道路や交通安全施設の整備、交通安全の啓発など、交通事故ゼロのむらづくりを目指します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
防犯・交通安全についての知識の普及と意識啓発	イベント等を活用した啓発活動の実施回数 ＜出典：総務課調べ＞	1 回／年
	交通安全協会・防犯協会による各種教室の開催 ＜出典：総務課調べ＞	2 回／年
交通安全施設・防犯環境の整備	防犯灯のLED化 ＜出典：総務課調べ＞	100%

4-2 交通の利便性の充実

（１）公共交通の確保

子どもや高齢者、観光客の移動手段の確保及び環境負荷の軽減に向け、JR小海線の運行の維持・充実を図るとともに、きめ細かな公共交通システムの導入を検討します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① JR小海線の活性化促進 (出典：産業建設課調べ)	利用促進に向けたイベント等の実施	1 回／年

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
② きめ細かな公共交通システムの導入検討	巡回バスやデマンド交通等の新交通システムの導入検討会議の開催 ＜出典：総務課調べ＞	会議開催

4-3 環境保全・衛生

(1) 自然環境の保護

豊かな自然を将来にわたって維持できるよう、ハヶ岳中信高原国定公園の区域や村が定めた自然環境保全地区をはじめとした自然環境の保全と創造を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 環境保全活動の促進	各種団体・村民参加の環境保全活動の実施回数 ＜出典：産業建設課調べ＞	6回／年

(2) 資源循環型社会の推進

豊かな自然環境を守るしくみとして、村の気候や産業の特性を活かしつつ、環境負荷の少ない資源循環型社会を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 再生可能エネルギー活用の推進	バイオマスエネルギー導入促進施策の実施 ＜出典：産業建設課調べ＞	導入・実施

(3) 上下水道の整備

良質な水を安定して供給するため、水源の確保や施設の適正な維持管理、災害時の対策を進めるとともに、河川の汚濁防止と快適な居住環境の確保に向けて下水道事業の推進を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 水資源の保全に向けた取組の推進	水資源保全地域の指定 ＜出典：産業建設課調べ＞	1 か所
② 施設・設備の適正な維持管理	上下水道施設の耐震化 ＜出典：産業建設課調べ＞	100%

4-4 居住環境

(1) 自然と調和した景観の形成

魅力のある住民生活の実現と観光地の創造に向けて、自然・農村景観、歴史・文化と調和した美しい景観形成・保全の取組を促進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 景観に対する意識の醸成	美しいむらづくり条例の 認知度 ＜出典：地方創生住民アンケート調査＞	70%

4-5 医療・保健・福祉の充実

(1) 地域医療の充実

予防と早期治療に重点を置いた診療所体制の維持・充実とともに、病診連携による地域医療の充実、休日・夜間医療と救急医療体制の強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 診療所の充実 (出典：住民課調べ)	24 時間 365 日の訪問看護 提供体制の維持	継続

(2) 自主的な健康づくりの推進

健康に関する正しい知識の普及と意識啓発や健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進し、自主的な健康づくりを促進します。また、一人ひとりの心身の状況把握に努めつつ、疾病予防や早期発見・早期対応につなげるためのきめ細かな相談指導の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 健康づくり活動の促進	要介護出現率 ＜出典：住民課調べ＞	17.6%以下
② 健康診査・各種検診の受診促進	特定健診受診率 ＜出典：住民課調べ＞	65%以上

(3) 能力を発揮できる場の創出

誰もが生きがいをもっていきいきと暮らしていくことができるよう、一人ひとりの意欲や状態に応じて能力を最大限発揮できる場の充実を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 高齢者の活動の場の充実	行き活き農村広場等の活動への延べ参加者数 ＜出典：社会福祉協議会調べ＞	120 人／年

(4) 地域支え合い体制の強化

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせる村を目指し、支援が必要な人を地域ぐるみで支える体制の強化やしきみの構築を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 包括的な支援体制の構築	生活全般の多様で複合的な課題に対する包括的な支援体制の構築 ＜出典：住民課調べ＞	令和3年度までに構築・継続

(5) 福祉サービスの充実及び相談支援体制の強化

きめ細かな福祉ニーズに対応できるよう、多様な主体による質の高いサービス提供体制の確保・充実を図ります。また、関係機関との連携を強化しながら、一人ひとりの状況に応じた適切な支援につなぐケアマネジメントの充実を図るとともに、相談窓口の周知と体制強化を図ります。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① サービスの質の向上	第三者評価の受審事業所数 ＜出典：住民課調べ＞	5事業所 (5か年累計)
② 地域包括支援センターの充実	地域ケア会議の開催 ＜出典：住民課調べ＞	6回／年
③ 介護家族への支援の充実	オレンジカフェ ＜出典：住民課調べ＞	1回／月
	認知症講演会 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年
	家族介護者交流会 ＜出典：住民課調べ＞	2回／年

(6) 人権の尊重と権利擁護

すべての村民の人権が尊重され、一人ひとりが持つ権利が守られるよう、虐待や暴力、いじめ、差別などのあらゆる人権侵害を起こさせない地域社会の形成と、地域全体で見守り、対応するための体制づくりを推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 人権意識の醸成	人権大会の開催 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年
② 権利擁護の推進	成年後見制度や権利擁護についての学習会開催回数 ＜出典：住民課調べ＞	1回／年

(7) セーフティネットの確保

すべての村民における最低限の生活を保障するため、社会保障における各種制度の適正な運用を図るとともに、住まい、生活資金の確保や自立生活に向けた就労支援を行います。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 住まい及び生活資金の確保支援	生活資金の相談受付件数 ＜出典：住民課調べ＞	5件／年

4-6 生涯学習・スポーツ

(1) 生涯学習・スポーツの充実

村民が生涯にわたり、興味・関心や能力・体力に応じて学習し、スポーツ等に親しむことができる環境づくりを推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 文化活動・スポーツ活動の促進	文化・スポーツ教室への 延べ参加者数 ＜出典：教育委員会調べ＞	500人／年

(2) 地域文化の振興

歴史的遺産や伝統行事の保護・継承と活用、良質の芸術文化に触れる機会の充実を図るとともに、村の魅力を再認識し、愛着や誇りを感じることで文化の振興を推進します。

事業・取組	重要業績評価指標	
	指 標	目標値(令和6年度)
① 文化財の保存と活用	小中学校における 文化財の啓発活動 ＜出典：教育委員会調べ＞	1回／年
② 芸術文化に触れる機会の充実	美術民俗資料館の来場者数 ＜出典：教育委員会調べ＞	6,000人／年

第5章 総合戦略の推進と効果検証の仕組み

1 推進と効果検証の仕組み

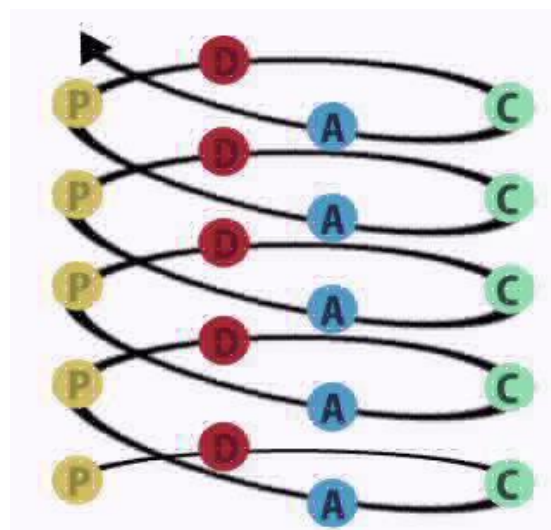
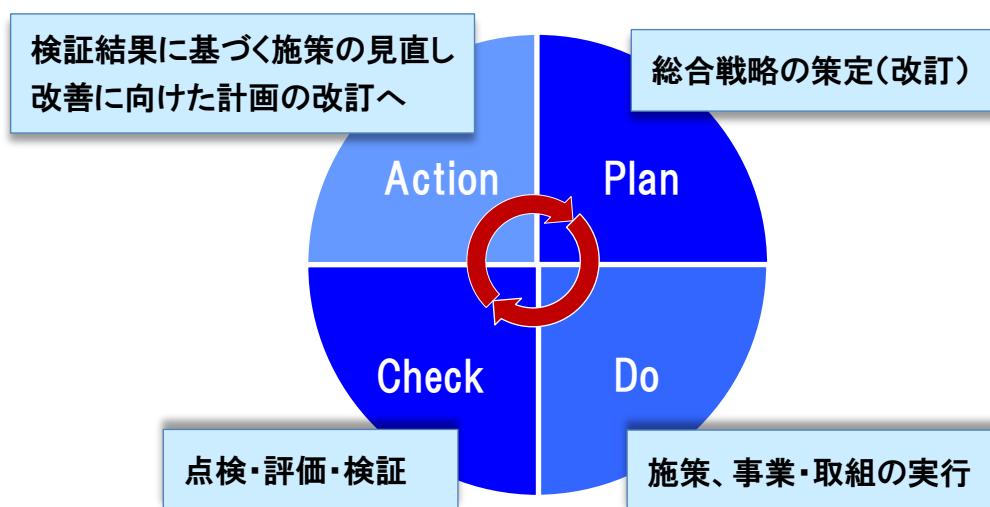
第二期南牧村総合戦略の推進にあたっては、施策・事業を実施し、その進捗・達成状況を評価・検証して改善につなげるPDCAサイクルによる管理を行います。特に、この戦略には基本目標ごとの数値目標に加え、重要業績評価指標（KPI）を設定しており、実現すべき成果（アウトカム）を重視した客観的な効果検証を図ります。

（1）PDCAサイクル

PDCAサイクルによる管理の考え方は、次のとおりです。

- Plan：数値目標・客観的な指標を定めた第二期南牧村総合戦略を策定
- Do：総合戦略に基づく施策、事業・取組の実行
- Check：数値目標や客観的な指標の達成度を通じ、総合戦略の成果を客観的に検証
- Action：検証結果に基づいて施策等を見直し、必要に応じて総合戦略を改訂

■PDCAサイクルによるマネジメント



（２） 推進体制

- 村長を本部長とする「南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」において、全庁的な推進体制により横断的に情報共有や事業の検討を行いながら、事業の着実に効果的な実施に取り組めます。
- 戦略の実施にあたっては、各施策及び事業に関係する地域住民、自治会、民間企業などと行政が一体となり、各々の役割分担を明確にし、より高い成果を上げられるよう取り組みを進めます。

（３） 評価・検証体制

- 南牧村総合戦略では、産官学金労言（産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア、士業等）で構成する検証機関（南牧村総合戦略推進協議会）を組織し、本戦略の推進にあたっての意見聴取のほか、本戦略の達成度の検証を実施し、広く公表します。また、住民代表の団体等に検証結果を報告することで、本戦略の着実な実施につなげていきます。

2 計画のフォローアップ

この南牧村総合戦略の初版を基本に、国が開発した「地域経済分析システム」による詳細な経済分析を加味するなど、随時、必要な見直し・改訂を行っていきます。また、取り組みの推進にあたっては、地方創生に関する交付金等の国の財政支援や人的支援の制度を含め、国の支援制度を積極的に活用していくこととします。

南牧村人口ビジョン・
第二期南牧村まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和3年3月

発 行	南牧村
企画・編集	南牧村役場総務課
住 所	〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村大字海ノ口 1051 番地
T E L	0267-96-2211（代表）
F A X	0267-96-2158
U R L	http://www.minamimakimura.jp/